

ODU NEWS

大阪歯科大学広報

No.173

March.2015

OSAKA
DENTAL
UNIVERSITY



平成26年度
大阪歯科大学卒業式
大学院学位認証式



Contents

02 平成 26 年度 大阪歯科大学卒業式

02 学 長 告 辞 学 長 川 添 堯 彬

02 理事長式辞 理事長 川添 堯彬

03 祝辞 同窓会会長 生駒 等

05 学位・博士(歯学)授与報告

06 平成 26 年度 専門学校卒業式

06 平成 27 年度 大学入試合格発表

06 第 108 回 歯科医師国家試験結果

07 平成 26 年度 定年退職者

「定年退職のご挨拶」諏訪 文彦

「Tempus fugit 一時は過ぎゆくー」岩井 康智

「定年退職のご挨拶」川合 進二郎

「山と自然を愛する仲間達との 40 年」森田 恭生

10 教授就任

・口腔インプラント学講座 馬場 俊輔

・歯科麻酔学講座 百田 義弘

13 国際交流

・【学生短期海外研修】コロンビア大学歯学部

13 認証評価

・大学基準協会認証評価「適合」認定を受ける

14 行事報告

・平成 26 年度 第 8 回 院内感染対策講習会

・平成 26 年度 第 10 回 医療安全講習会

・平成 26 年度 文部科学省 医学教育等関係業務功労者の表彰について

・病院勤務の医療従事者向け認知症対応力向上研修について

・平成 26 年度 教職員忘年慰労会

・第 10 回 大阪歯科大学附属病院歯科医師臨床研修指導歯科医講習会

・平成 26 年度 第 3・4 回 医薬品安全管理講習会

・枚方市の健康医療キャラバン事業への参画

・平成 27 年度 歯科医師臨床研修 情報交換会

・第 12 回 大阪歯科大学附属病院 病診連携講演会・懇談会

・第 22 回 大阪歯科大学公開講座(枚方講座)「超高齢社会への歯科の取り組み」

・平成 26 年度 第 3 回 医療機器安全管理講習会

18 平成 27 年 新年互礼会

18 年頭所感 理事長・学長 川添 堯彬

24 平成 27 年度 事業計画

27 人事

28 寄贈

28 あとがき



平成26年度 大阪歯科大学卒業式

平成26年度 大阪歯科大学卒業式並びに大学院学位認証式が、平成27年3月6日（金）に執り行われました。川添 堯彬 理事長・学長から第63回大学卒業生一人ひとりに卒業証書・学位記が授与され、また、第51回大学院修了者にはそれぞれの指導教授から博士（歯学）の学位記が授与されました。これから各々の道に羽ばたいてゆく卒業生に、理事長・学長よりお祝いと激励の言葉が述べられました。お天気も良く、式終了後は、恩師や後輩と記念写真を撮ったり、胴上げされたり、とても和やかな旅立ちのひとつとなりました。



学長告辞

学長 川添 堯彬



この3月6日は二十四節気の「啓蟄」にあたります。周辺野山の梅林も満開で、春の息吹きがそこかしこに感じられる頃でございます。

本日、まさに春の到来が近い良き日に、第63回大阪歯科大学卒業式を迎えられます93名の新歯学士諸君、並びに第51回大学院学位認証式を迎えられる27名の新博士の皆さん、本日は誠にありがとうございます。本席にご臨席いただきました保護者・ご家族の皆様におかれましても、ひとしおの感慨に胸を膨らませておられることと拝察いたします。

さて、新歯学士の皆さんに申します。皆さんは間もなく国家試験に見事に合格し歯科医師になれるわけですが、これからさらに国で決められた1年間の臨床研修で研鑽する義務があります。その後は大学院博士課程への進学や、社会人歯科医師として、各分野に分かれて活躍していただくことになります。それぞれに使命感ややりがいを見つけてくれるものと思っております。

新歯学士の皆さんは、6学年の最終課程を精一杯勉学に励み、目覚ましい成果を

挙げられた精鋭揃いの方々であることを私はよく知っています。そのような皆さんに、これからの人生に立ち向かう心構えについて、明治維新の立て役者となった多くの若者を育成されたことで知られる吉田松陰先生の教え「士規七則」の中から三つの言葉を贈りたいと思います。これをまず目標としていただければと思います。

一つ目、志を立てることを万事の原点とすること。

二つ目、良き友を選んで行動・考え方の助けとすること。

三つ目、読書によって故人、賢人の教えを学ぶこと。

二つ目につきましては、交友もこれからは海外諸国に目を向けてほしいと思います。自己啓発にもなりますし、視野の拡大にもつながります。グローバル化が進む中、将来の私たちの活躍の場もあるいは世界に見い出せるかもしれません。

そして三つ目につきましては、従来よりもっと患者さんに喜んでもらえるような歯科医療を探索し、実行してほしいのであります。患者さんに限らず、できるだけ多くの人々から「ありがとう」という言葉をたくさん言ってもらえる、そんな歯科医師になってほしいと思います。

次に、めでたく大学院を修了された新博士の皆さんへ申します。皆さんは歯学部を卒業後、さらに上級コースへ進学されました。勉学意欲、研究意欲に燃えて、幾度もの苦勞に耐え、努力を惜しまず、このたび見事に「博士」の学位を授与されました。このご苦勞の成果を、これか

ら各々の職業人生や、あるいは研究人生においてさらに磨き、歯科界の各分野のトップランナーとなって、存分に活躍していただくことを祈念します。

皆さんは恵まれ、また幾多の努力を経てここまで進んでこられた、まさに宝となるエリート人材でございます。お一人でも多くの方に本学に帰ってきていただき、本学の教員人材のかなめになっていただきたい思いでございます。そして将来、いつの日か、「博愛」と「公益」という究極の目標へ一歩でも近づいてほしいのであります。大学の力を一段と高めていただきたいとお願いいたしております。

以上、新歯学士と新博士の皆さんへの学長告辞といたします。

理事長式辞

理事長 川添 堯彬

このよき日に第63回大阪歯科大学卒業式をめでたく迎えられます、新卒業生の皆さん、並びに第51回大学院学位認証式を迎えられます27名の新博士（歯学）の皆さん、本日は誠にありがとうございます。本席にご臨席賜りましたご家族・保護者の皆様方におかれましても、さぞや安堵の思いでおられることと拝察いたします。

さて、まず学部卒業生の皆さんに申します。皆さんは間もなく国家試験に合格し、晴れて歯科医師となるわけですが、さらに一年間の臨床研修を積みなければ一人前にはなれません。私はここで、皆さんが社会へ出てから目標

とする歯科医師像について、こんな歯科医師になってほしいという願いを申したいと思います。具体的には三つあります。

一つ目は、患者さんに感動してもらえて、それを喜びとを感じる歯科医師であります。患者さんから感動や感謝の気持ちが伝えられる、またそれを喜びとできる歯科医師にぜひなってほしいと思います。患者さんは歯科医療において、安全・安心の治療を何よりも望んでおられます。

二つ目は、一旦治療が終わりましてもまた再びこの先生にかかりたい、診てもらいたいと思ってもらえるような歯科医師になってほしいと思います。これは信頼性確保であり、社会貢献につながるものと思われます。

そして三つ目は、職業として、歯科医師になって本当によかったと思えることです。これは本学の建学の精神にかなったことであり、ご父兄・保護者にとって、また本学の教員にとっても最も喜びであり、切なる願いでもあります。

どうかこの三つをこれからの目標として、Science「頭脳」、Art「医療技術」& Heart「心と人間性」を、磨いていってください。

次に大学院博士課程修了の皆さんに申します。皆さんは、それぞれの専攻講座指導教授のもとで研鑽に努められ、専門分野での知識をより深められたことと思います。しかし単に学位を取得したことに満足せず、得られた知識と専門分野での研究成果をこれからの歯科医療分野に反映させていただきたいと切望してやみません。また、大学や病院に残られる場合には、各部署での重要な職責を担うことになると思います。まさに社会貢献につながる道であります。

そして、新学士並びに新博士の皆さんは、今年で104周年を迎えた本学の卒業生であることを、めいめいの心に刻んでほしいのであります。104年の長きにわたって社会に奉仕し、貢献してきた先輩たちが築いてきた誇りを、あなた方若い者にも持ってほしいと思います。そうすれば一同の胸中に、未来へ向けての新たな誓いが生まれるものと確信します。

今日この日に、104年に一度の貴重なこのときに、皆さんが卒業し、私たち教職員がそれを見届けることができた僥倖を思わずにはいられません。皆さんも未来に向けての新たな誓いを

今日、このときに胸に刻んでいただきたいと強く願っております。

以上のお願いを申し上げて、理事長式辞といたします。

祝辞

同窓会会長 生駒 等



平成26年度大阪歯科大学卒業式並びに大学院学位認証式にあたり全国同窓会会員を代表してお祝いを申し上げます。

6年間の学業を終えられ、めでたく卒業の日を迎えられました、新しい歯学士の皆様、そして永年の大学院での研究を終えられ博士（歯学）を授与された皆様方の努力に対し、心から敬意を表します。

また、本日の晴れの日を一日千秋の思いで待ちわび、本人在学中に筆舌に尽くせぬ、ときには温かく、そしてと



きには厳しいご支援をなさいましたご家族の皆様方に深甚なる敬意を表し、お慶びを申し上げます。

大阪歯科大学は創立100周年を超える歴史と伝統ある大学であります。本学を卒業され歯科界に羽ばたかれる諸君の前途には洋々たる未来が開かれることを確信いたします。

また、諸君は、申すまでもなく本日から歴史と伝統ある大阪歯科大学同窓会の一員であります。同窓会はこれから歯科医師として活躍していく上で一番身近で、親しみ深い同胞の組織であり、絆を確かめ合うよりどころとしての役割を果たしたいと念願しております。

大阪歯科大学同窓会の一員であるという意識をもって、同窓会の事業や研修会に積極的に参加してください。諸君の若さ溢れる素晴らしい情熱と行動力を、私達同窓一同は大きな期待をもってお迎えいたします。

私達、歯科医師という職業は日進月歩の歯科医学の充実、発展、高度化を吸収し、その知識と技術を習得していかなければならない生涯研修という宿命をもっていますが、それゆえに患者さんや国民の皆様々に信頼されることになると思います。

平成18年度からは歯科医師の卒後臨

床研修が法律により必修化されました。これは歯科医師としての人格をかん養し、幅広く歯科医師として必要とされる基本的、総合的な診断能力を効果的に身につけるための制度であります。同時に歯科医師と患者さんの相互信頼の関係が最も大切なこととして要求される時代となり、そのためにも臨床研修の必要性が位置づけられることになったのだと思います。

本年は戦後70年という節目の年にあたります。戦後という言葉はもはや死語かもしれませんが、30年前までの日本は右肩上がりの成長を続け、企業は年功序列、終身雇用が定着していました。経営も生活設計もある程度先を見通すことができ、ストレスは多くても心理的にはむしろ安定していました。ところが、今は一寸先も分からない不透明な時代です。そういう世相を反映してか、近年うつ病など精神的疾患を抱えた人たちが急増し、これが原因で欠勤し、失職する人も増えているようです。頑張り屋で真面目で有能な人ほど燃え尽きて辞めてゆくという現象が企業、病院、学校などあらゆる場で起きています。精神的に打たれ強く、自分の感情を自分で上手くコントロールできる力を持つ人は、厳しい競争に

生き残り成功を収めます。一方で学歴や経験が華やかでも、すぐに挫折して競争から落ちこぼれていく人も少なくありません。この両者を分けるものは何なのか、それは心理学用語でいうところのレジリエンス、すなわち「精神的回復力」「抵抗力」「復元力」「耐久力」で、第一に試練から立ち上がるしなやかな心を身につけることです。二つ目に「緩衝力」、ストレスを受け入れながらも、それに負けないだけの弾力性のある心を持つことです。最後に、一番大切なのが「適応力」、新しい状況に対応する力、困難に打ち勝つ力です。誰でも、仕事や人生で逆境に陥ることがあります。その時に問われるのがレジリエンス精神的回復力です。

大阪歯科大学同窓会には先師先人によって培われた「叡智」と「大歯魂」が受け継がれており、逆境から立ち直るためのお手伝いをしてゆくのも役割の一つと思っております。

最後になりましたが、卒業生、大学院修了者の皆様の幸運と健康を、あわせて母校のさらなる発展を心から願って同窓会よりの祝辞といたします。本日は、誠にありがとうございました。



Ⅱ 学位・博士（歯学）授与報告

廖 文 甲第 741 号 平成 27 年 3 月 6 日

Cell survival and gene expression under compressive stress in a three-dimensional in vitro human periodontal ligament-like tissue model (荷重下における三次元 In Vitro ヒト歯根膜様組織の細胞生存と遺伝子発現)

中島 有佳子 甲第 742 号 平成 27 年 3 月 6 日

Evaluation of pixel density in the images of cone-beam computed tomography (歯科用コーンビーム CT のピクセル値の評価について)

大森 裕子 甲第 743 号 平成 27 年 3 月 6 日

Fabrication of dispersible calcium phosphate nanocrystals via a modified Pechini method under non-stoichiometric conditions (改良 Pechini 法による分散性リン酸カルシウムナノ粒子の開発)

片山 暢仁 甲第 744 号 平成 27 年 3 月 6 日

The Effects of Synthetic Oligopeptide Derived from Enamel Matrix Derivative on Cell Proliferation and Osteoblastic Differentiation of Human Mesenchymal Stem Cells (ヒト間葉系幹細胞に対するエナメルマトリックス由来合成ペプチドの影響)

伊藤 友彦 甲第 745 号 平成 27 年 3 月 6 日

Bone Regeneration with a Collagen Model Polypeptides/Alpha-Tricalcium Phosphate Sponge in a Canine Tibia Defect Model (イヌ脛骨骨欠損モデルを用いたコラーゲン様ポリペプチド / α -リン酸三カルシウムスポンジの骨再生)

柿原 理奈 甲第 746 号 平成 27 年 3 月 6 日

Activation of microglia in the nucleus of the solitary tract by inferior alveolar nerve injury (下歯槽神経損傷による孤束核内のマクログリアの活性化)

大橋 百加 甲第 747 号 平成 27 年 3 月 6 日

Coordinated effect of IL-17A and IL-27 on osteoclast differentiation of RANKL-stimulated RAW264.7 cells (RANKL 刺激による RAW264.7 細胞の破骨細胞分化における IL-17A と IL-27 の協調効果)

魯 灵 甲第 748 号 平成 27 年 3 月 6 日

Influence of various dentin desensitizers on the effect of tooth whitening (各種知覚過敏抑制材が漂白効果に及ぼす影響)

森田 浩正 甲第 749 号 平成 27 年 3 月 6 日

Effects on Circulating VEGF Concentration on Periodontal Surgery in Diabetic Rats (糖尿病ラットに行った歯周外科的侵襲による循環血中 VEGF 濃度に対する影響)

山田 康嗣 甲第 750 号 平成 27 年 3 月 6 日

Expression of SHH, PTCH and SMO to the Hedgehog signal in keratocystic odontogenic tumor (角化嚢胞性歯源性腫瘍における Hedgehog 経路に対する SHH, PTCH および SMO の発現の検討)

廣田 秀逸 甲第 751 号 平成 27 年 3 月 6 日

Effect of hyaluronan on osteoclast differentiation in mouse bone marrow-derived cells cocultured with primary osteoblasts (マウス骨髄由来細胞と骨芽細胞の共培養系でのヒアルロン酸の破骨細胞分化に及ぼす影響)

覺道 昌樹 甲第 752 号 平成 27 年 3 月 6 日

Ultrasonographic examination of how occlusal support is established by tongue movements during mastication (超音波画像を用いた咀嚼時舌運動の検討 —咬合支持域の確立が与える影響—)

沖田 直也 甲第 753 号 平成 27 年 3 月 6 日

Effects of Strontium Ions on the Chondrogenic Differentiation of Adipose-derived Stem Cells (ストロンチウムが脂肪由来幹細胞の軟骨分化誘導に及ぼす影響)

長家 茉耶 甲第 754 号 平成 27 年 3 月 6 日

A Comprehensive Mixture of Tobacco Smoke Components Retards Orthodontic Tooth Movement via the Inhibition of Osteoclastogenesis in a Rat Model (タバコ煙成分がラットの歯の移動に及ぼす実験的研究)

西村 貴子 甲第 755 号 平成 27 年 3 月 6 日

Porous Hydroxyapatite Can Improve Strength and Bioactive Functions of Glass Ionomer Cement (多孔質ハイドロキシアパタイトはガラスアイオノマーセメントの強度および生体活性を向上させる)

奥田 麻貴子 甲第 756 号 平成 27 年 3 月 6 日

Effects of High Glucose for Hard Tissue Formation on Type II Diabetes Model Rat Bone Marrow Cells in Vitro (II 型糖尿病モデルラット骨髄細胞の硬組織形成に及ぼす高濃度グルコースの影響)

加山 智規 甲第 757 号 平成 27 年 3 月 6 日

Bone response around titanium alloy implants in osteoporosis (骨粗鬆症がインプラント埋入周囲組織に与える影響について)

井奥 雄介 甲第 758 号 平成 27 年 3 月 6 日

Effect of β -tricalcium phosphate and porous hydroxyapatite bone substitutes on bone regeneration in alveolar bone defects around dental implants (インプラント周囲骨欠損の骨再生過程に及ぼす多孔体 β -リン酸三カルシウムおよび多孔体ハイドロキシアパタイト骨補填材の影響)

小松 首人 甲第 759 号 平成 27 年 3 月 6 日

Application of Titanium Dioxide Nanotubes to Tooth Whitening (酸化チタンナノチューブの歯の漂白への応用)

金住 雅彦 甲第 760 号 平成 27 年 3 月 6 日

Surface electromyography of accessory inspiratory muscle activity during upper airway obstruction (表面筋電図解析による上気道閉塞時の吸気補助筋活動の検討)

竹山 旭 甲第 761 号 平成 27 年 3 月 6 日

Application of Titanium Dioxide Nanotubes to Tooth Whitening (酸化チタンナノチューブの歯の漂白への応用)

柴田 啓貴 甲第 762 号 平成 27 年 3 月 6 日

Pressure of laryngoscope blade on anterior teeth during direct laryngoscopic examination (喉頭展開における喉頭鏡ブレードと前歯接触部位の荷重に関する検討)

西尾 謙宏 甲第 763 号 平成 27 年 3 月 6 日
Chondrocyte differentiation of human buccal fat pad-derived dedifferentiated fat cells and adipose stem cells using an atelocollagen sponge (アテロコラーゲンスポンジを用いたヒト頬脂肪体由来の脱分化脂肪細胞と脂肪幹細胞の軟骨分化)

田隅 千智 甲第 764 号 平成 27 年 3 月 6 日
Effect of a modified Herbst appliance on maxillofacial morphology (改良型 Herbst 装置が顎顔面形態に及ぼす影響)

井上 ちひろ 甲第 765 号 平成 27 年 3 月 6 日
Study on adhesion of orthodontic brackets on enamel with resin cements (レジンセメントを用いた矯正用ブラケットのエナメル質への接着性)

南堂 百映 甲第 766 号 平成 27 年 3 月 6 日
Effects on Novel Synthetic Peptide during Early Wound Healing of Periodontal Artificial Defects in Rats (ラット人工的歯周組織欠損部の早期創傷治癒過程における新規合成ペプチドの影響)

中島 章宏 甲第 767 号 平成 27 年 3 月 6 日
Effect of tractive force using a temporary screw type anchorage device in alveolar bone —Stress analysis using the three-dimensional finite element method— (歯槽骨に及ぼすテンポラリーアンカレッジデバイス(スクリュータイプ)を用いた牽引力の影響 —三次元有限要素法による力学解析—)

疋田 勝也 乙第 1591 号 平成 27 年 3 月 25 日
Morphological differences in epithelial papillae and microvascular architecture according to site in cat filiform papillae (ネコ糸状乳頭の上皮乳頭および微細血管構築の部位別形態差)

金平 裕久美 乙第 1592 号 平成 27 年 3 月 25 日
Effect of fluoridated dentifrice on the number or missing teeth (喪失歯数に及ぼすフッ化物配合歯磨剤の影響)

服部 泰直 乙第 1593 号 平成 27 年 3 月 25 日
Study on Adhesion of Composite Resin using an in vitro Model of Hypersensitive Dentin (知覚過敏症罹患モデル象牙質への光重合型コンポジットレジンの接着性について)

|| 平成 26 年度 専門学校卒業式

平成 27 年 3 月 10 日 (火)、第 50 回歯科技工士専門学校卒業式並びに第 38 回歯科衛生士専門学校卒業式が行われました。当日は多くの来賓にご出席いただき、歯科技工士学科(2 年制)から 13 名、歯科技工士専攻科(2 年制)から 11 名、歯科衛生士学科(3 年制)から 52 名が大阪歯科大学から医療の世界へと新たな一歩を踏み出しました。

末瀬一彦校長、小出武校長から一人ひとりに卒業証書が手渡され、ご父兄への敬意とお祝いのことば、また卒業生のひたむきでたゆまない努力に対して敬意が示されました。学校長告辞では、はからずも両校長から「置かれた場所で咲きなさい」という学校法人ノートルダム清心学園の理事長である渡辺和子さんのことばが紹介されました。卒業生一人ひとりが、どのような境遇におかれ



ても前向きの姿勢で自分にできることを精一杯すること、悔いのない幸せな人生を歩むことができるように祈念されました。

当日は雹(ひょう)が降るほどの寒い天候でしたが、すべての教員と在校生が見守るなか、あたたかな空気が流れる式でした。

|| 平成 27 年度 大学入試合格発表

平成 27 年度は、①大学入試センター試験利用入試の導入、②一般入試(前期)において「東京会場」の設置、③入試成績優秀者を対象とした特待生制度の導入により、志願者数・受験者数とも増やすことができました。実施日、志願者数・受験者数・合格者数は下表のとおりです。

【前期】一般：平成 27 年 1 月 31 日(土) / センター利用：1 月 28 日(水)
【後期】一般：平成 27 年 3 月 7 日(土) / センター利用：3 月 5 日(木)

	前 期		後 期		合計
	一般入試	センター利用	一般入試	センター利用	
志願者数	253 名	95 名	78 名	14 名	440 名
受験者数	239 名	94 名	67 名	14 名	414 名
合格者数	78 名	10 名	15 名	3 名	106 名
入学者数	※ 推薦入学者を含めて 128 名				

|| 第 108 回 歯科医師国家試験結果

平成 27 年 1 月 31 日(土)・2 月 1 日(日)の 2 日間にわたり実施された第 108 回歯科医師国家試験結果が 3 月 18 日(水)に発表されました。本学学生・既卒者の合格状況は、下表のとおりです。新卒者の受験については、2 年連続で全国平均を上回る合格率を達成しました。

	新卒者	既卒者	合 計
受験者数	93 名	58 名	151 名
合格者数	72 名	24 名	96 名
合格率	77.4%	41.4%	63.6%
(全国平均)	73.0%	47.8%	63.8%

平成26年度 定年退職者

口腔衛生学講座	主任教授	神原 正樹
解剖学講座	主任教授	諏訪 文彦
細菌学講座	主任教授	福島 久典
口腔解剖学講座	主任教授	岩井 康智
生物学教室	主任教授	川合進二郎
臨床研修教育科	専任教授	前田 照太
口腔治療学講座	講師	好川 正孝
口腔外科学第一講座	助教	田伏 信

下記の皆様が平成 27 年 3 月 31 日をもって定年退職されました。定年を迎えるにあたり、4 名の方からお寄せいただいたご挨拶文を掲載いたします。

図書課	課 長	高橋 和代
医事課	課 長	森田 恭生
医事課	主 任	吐山 寛
医事課	事務職員	藤田満里子
附属病院	歯科技工士主任	小山 和美
附属病院	歯科技工士	堀内 賢
附属病院	歯科技工士	明崎 納

定年退職のご挨拶

解剖学講座 諏訪 文彦

平成 27 年 3 月 31 日に定年退職をいたしました。昭和 48 年 4 月 1 日から解剖学講座に助手として任用され、多くの方々のご厚情に支えられ、41 年間にわたり勤めさせていただきました。教授就任は、平成 7 年 8 月からで、ほぼ 20 年間に亘り教授として勤めました。すなわち、教授就任 20 周年をむかえての退職となります。特に、この 20 年は、歳月人を待たずで、あっという間に時が過ぎたように感じております。まだまだ、や

りたいこと、しなければならないことがあるのにと、一方では、何を成し得たのかと思いつつ、でも、自分のやりたい教育・研究をやらせていただいたことを思うと、大学に対して感謝の気持ちで一杯です。定年退職後は、健康に留意し、研究のまとめ、教科書の作成、専門学校の学生教育などと、命ある限り、歯学のために貢献する所存でおります。まだまだ、がんばりますのでよろしく御願いたします。最後に、本学の理事長・学長川添堯彬先生をはじめとして、理事の先生方、教職員の皆様に、こころより感謝と御礼を申し上げます。



Fumihiko Suwa

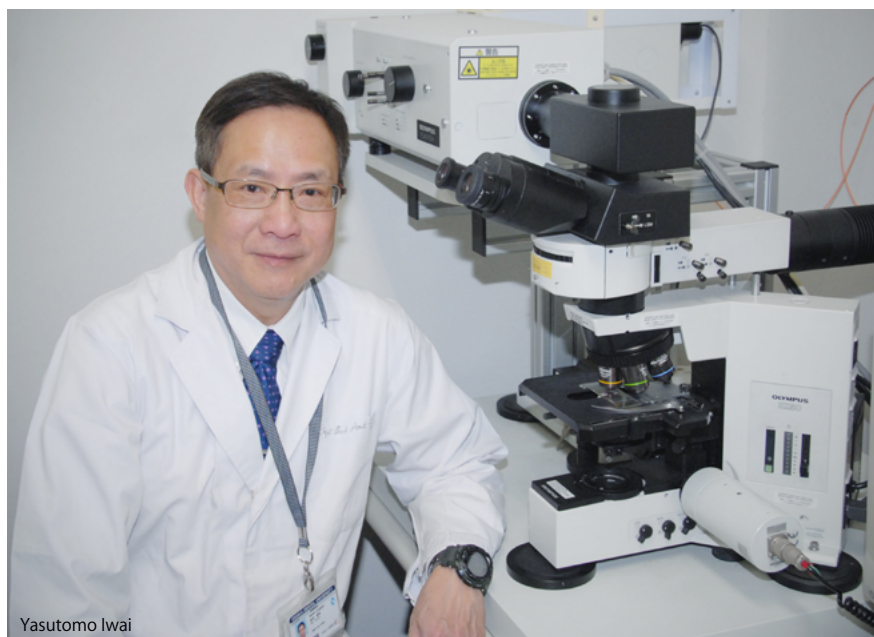
Tempus fugit 一時は過ぎゆくー

口腔解剖学講座 岩井 康智

平成 27 年 3 月末日をもちまして定年退職いたしました。大阪歯科大学とのかわりは昭和 51 年 4 月に大学院専攻科

に入学したときからで、39 年間になります。また、口腔解剖学教室教授の織田正豊先生(専 29 回)に声をかけられ、教室の助手に採用されたのが昭和 54 年 4 月からですから奉職 36 年となり、まさに Tempus fugit (時は過ぎゆく)の感を強く抱く次第です。無事に定年退職を迎えることができたのは、ひとえに諸先輩方のお導き、同僚、後輩の支えによるものと感謝いたしております。

口腔解剖学教室では伝統的に歯の形態学、歯系組織(発生、微細構造、比較解剖)の研究を行っておりますが、教室に所属した初期の段階から、当時の形態系の研究の花形であった電子顕微鏡による形態観察に取り組み、東義景先生(大 6 回)のご指導を得ながら象牙芽細胞の微細構造やエナメル小柱にみられるハイドロキシapatite の微結晶など歯系組織や歯胚の微細構造の



Yasutomo Iwai

解明に力を尽くしました。当時の天満橋学舎の5階と8階にあった電顕室で、朝日大学に移られた明坂年隆先生(大22回)とともに夜遅くまで試料と格闘していたことが懐かしく思い出されます。当時電顕室には野中登貴男さん、堀英明さんなどの技術員がおられ、随分助けてもらいましたが、電顕操作中に試料を鏡筒内に落としてしまい、電顕を分解・再組立てしてもらったなどの迷惑をかけたこともありました。

当時、歯科医師国家試験には実技試験がありましたが、模擬試験で学生が作ったコンプリートデンチャーの人工歯排列、endoの根管形成、歯冠彫刻など難しい内容のものが見事な出来栄で、本学の試験対策の厳しさに感銘を受けました。教室内では高木正邦先生(大9回)、崎山好雄先生(大12回)、長楽謙輔先生(大16回)、小林徹先生(大18回)、橋爪年世先生(大18回)、辻高昭先生(大20回)、多田逸先生(大21回)、菊池史郎先生(岩手医大)、山本洋幸先生(大25回)、椿井孝芳先生

(大34回)など大勢の先生方がおられ、わいわいがやがやと面白い時代を過ごせたと思います。

時の流れに従って、研究手法にも変化が生じてきました。共焦点レーザー走査型顕微鏡やマイクロフォーカスエックス線CTなど新しい機器の導入に伴い、これまでの電顕観察に加え、新たな観察手法を得て、一層研究に勤しむことができるようになりました。観察対象も歯系組織の微細構造のみならず、歯と歯列の形態認識における3D技術の活用、口腔組織の感覚と高次脳機能の関連、さらには現代にはなくてはならない再生医学の基礎的研究などへと広げることができました。時代の大きな変化に伴い、研究手法や分野は大きく広がりましたが、歯科の根幹を成す歯の形態や構造に深く携わることができたことは幸せだったと感じます。

平成13年4月に初代白数美輝雄先生、2代織田正豊先生、3代東義景先生の後任として4代目の口腔解剖学講座教授に就任いたしました。講座の規模は

かつての大所帯からみればずいぶんと小さくなってきていますが、教育・研究については自分なりに新しい考え方を取り入れ、講座員(隈部俊二先生(大42回)、中塚美智子先生(九歯大)、上田甲寅先生(阪大院)、松田哲史先生(大54回)、乾千珠子先生(阪大院)、安春英先生(神大院)、高間敬子先生(朝日大院)、相川文子先生(徳大)、井辺弘樹先生(長崎大))ともども目標を設定し、分担しあいながら、その実現に努力してまいりました。口腔解剖学教室・講座の一員として大阪歯科大学とともに過ごした時間・記憶・経験は私の宝となっています。

今後は健康に留意しつつ、いろいろな形で社会貢献をしてみたいと考えておりますので、変わらぬご厚誼を賜りますようお願い申し上げます。

大阪歯科大学のますますの発展と皆様のご健勝をお祈りいたします。誠にありがとうございました。

定年退職のご挨拶

生物学教室 川合 進二郎

平成27年3月末をもって35年6ヶ月に及ぶ大阪歯科大学での生活を終えることとなりました。昭和54年10月から今日に至る間、さまざまな方にお世話になりました。心から御礼申し上げます。

私はこの年月のほぼ前半を牧野学舎で、後半は楠葉学舎で過ごしました。振り返ってみるとそれぞれに思い出がありますが、まず初めに浮かぶのは辞令交付の際に理事長・学長の白数美輝雄先生から「牧野の土となれ!」という訓示を戴いたことです。大阪歯科大学に骨を埋める覚悟をもって仕事に励めという趣旨ですが、当時の私にはそれほどの決意はなかったように思います。新米教師として「生物学の面白さ」を学生にしっかりと伝えていきたいという思いは溢れていましたが、将来は漠然としてしっかりと受け止めるだけの実感はありませんでした。いま改めてこの言葉を「果たし



てしっかり骨を埋めるまで働いたか」と自問自答しながら噛みしめています。

次に思い出されるのは、平成9年に楠葉新学舎への移転に伴う引っ越しの苦労や、新キャンパスでの基礎系を中心と

する新たな教職員の方々との出会いなどです。新たな環境に落ち着くまでは大変でしたが、真新しいキャンパスは輝いていて学生・教職員が高揚した気分包まれていたのを懐かしく思い出します。

大学の原点は良質な教育・研究の成果を常に社会に提供していくことです。そのためには教職員が高い意識をもっていなければなりません、当時のような一体感があれば困難を少しずつ乗り越えられるのではないかと思います。

教授に就任したのはおよそ12年前になりますが、それからは主に教務・学生部関連の委員会で仕事をしました。学生と大学全体に関わる事柄が増え、さまざまな体験をしました。対外的なこと

や学生指導など苦労することはたくさんありましたが、いま振り返ってもさまざまなことが思い出されます。与えられた部署で最善を尽くすのは組織人として当たり前ですが、観る角度が変わると「最善」を見極めるのも大変です。相手が学生や父兄などであれば雑念や情も湧いてきて直ぐに決断できないこともありました。そのような場合には「教育者として相応しい決断」とは何かを考え、それを優先させることで行動してきたつも

りです。

「歳月人を待たず」とあるように、いま思うと時間が過ぎゆくのは早いものです。私が大阪歯科大学で過ごした時間も今後は種々の思い出の中に埋もれていきますが、これからも力がある限り「生物学の面白さ」を伝えることに関わりながら歩んでいこうと思っています。改めて、皆様のご健勝と大学のさらなる発展を祈念しつつご挨拶と致します。長年のご厚誼に感謝致します。

山と自然を愛する仲間達との40年

医事課 森田 恭生

平成27年3月31日をもって40年間勤務させていただきました大阪歯科大学で無事に定年の日を迎えられましたのも、教職員皆様のご指導のお蔭と深く感謝申し上げます。

昭和49年7月に教務課に採用され、その後配置転換により附属病院医事課、再び学生課、そしてまた医事課勤務で退職を迎えることとなりました。

大学教務課時代はそろばんで集計業務を行い、公文書等はタイプライターで

作成しておりました。

学生課時代は、特別聴講生の係り、大学祭、体育祭、学生ロッカーの整理、駐車違反学生の指導等いろいろな仕事をさせていただきました。

附属病院医事課(昭和52年頃)では、診療報酬明細書(レセプト)の請求業務をさせていただきました。当時は全て、手書きでレセプト請求をしました。患者様の健康保険証別に社保、国保(本人・家族)、労災等を台帳で管理し、診療録(カルテ)に書かれた処置内容を転記していました。月末に転記内容を見てレセプト請求を行っておりました。現在では、コンピュータ化によりレセプト請求

作業は軽減されました。

また、多くの教職員皆様とハイキング等で楽しい時を過ごさせていただきました。昭和53年9月に山好きが集まり「山歩(さんぽ)の会」が生まれました。誰でも参加できる場を作ることをモットーに山行を続けてまいりました。春は新緑、夏は涼しさ、秋は紅葉、冬は樹氷、四季折々、山を楽しんでいます。本年3月の例会で第235回を迎えることとなりました。

最後に、大阪歯科大学のますますのご発展と、皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

回数	日付	行先
1回	昭和53年9月	滋賀県・八雲ガ原
20回	昭和55年2月	滋賀県・武奈ガ岳
46回	昭和61年9月	犬鳴山
50回	昭和62年8月	西穂高岳・独標
69回	平成7年6月	金剛山
79回	平成9年8月	富士山
100回	平成13年9月	比良・八雲ガ原
101回	平成13年11月	武田尾廃線路ハイク
105回	平成14年7月	富士山
155回	平成20年11月	奈良 春日山原始林
170回	平成22年2月	信貴山
190回	平成23年8月	琵琶湖水生植物園
200回	平成24年7月	西穂独標、高山
216回	平成25年9月	川上村、溪流釣り
225回	平成26年8月	全国金魚すくい大会
234回	平成27年2月	滋賀県・蛇ヶ峰



Yasuo Morita

教授就任

就任された下記 2 名の先生のご略歴とご挨拶を掲載いたします。

口腔インプラント学講座	主任教授	馬場 俊輔	平成 27 年 2 月 1 日付
歯科麻酔学講座	主任教授	百田 義弘	平成 27 年 2 月 1 日付



口腔インプラント学講座 主任教授

馬場 俊輔 ばば しゅんすけ

博士（歯学）／昭和 37 年 2 月 10 日 53 歳

<学歴>

- 1989 年 3 月 大阪歯科大学卒業
- 1989 年 7 月 第 82 回歯科医師国家試験合格
- 1993 年 3 月 大阪歯科大学大学院歯学研究科 博士課程修了
博士（歯学）の学位を受領

<職歴>

- 1993 年 4 月 京都府立医科大学病院医員
- 1995 年 4 月 京都府立医科大学助手（歯科）
京都府立心身障害者福祉センター附属リハビリテーション病院 歯科医長
- 1996 年 4 月 京都府保険福祉部障害者保険福祉課 主任医師
- 2003 年 1 月 名古屋大学大学院助手（医学系研究科頭頸部・感覚器外科学講座）
- 2003 年 4 月 財団法人先端医療振興財団先端医療センター 主任研究員（再生医療研究部）
- 2005 年 4 月 財団法人先端医療振興財団先端医療センター研究所グループリーダー
（歯槽骨再生研究グループ）
- 2010 年 4 月 独立行政法人医薬品医療機器総合機構 生物系審査第二部 主任専門員
- 2011 年 4 月 大阪歯科大学 専任教授（口腔インプラント科）
- 2012 年 12 月 大阪歯科大学大学院准教授（口腔インプラント学）

教授就任ご挨拶

口腔インプラント学講座 馬場 俊輔

大阪歯科大学主任教授会の選出および法人理事会の承認を頂き、平成 27 年 2 月 1 日付けで大阪歯科大学口腔インプラント学講座の主任教授を拝命いたしました。私は本学を卒業して以来、平成 23 年に専任教授を拝命して本学に戻るまで 22 年間、学外にて臨床・研究開発・行政を経験してまいりました。お蔭さまで多くの出会いをさせていただきました。その経験を生かして本学の建学の精神に謳われていますように、専門的知識、技能の重要性を自覚させることができるような教育を今後も心がけてまいります。行政での経験から、個の知識は自己のモチベーションによるところも大きいですが、

それ以上にチームとして論点を推敲し議論する過程を体感することで結果的に個の力を引き出したいと考えています。つまり組織を強くするには、個の問題をチームで解決しそれによって全体の能力が向上し、その結果として社会人として必要な能力も具備できると考えます。これらの取組みを通じて本学を卒業した歯科医師ならば、次世代を生き抜く知識だけでなく技術力ひいては人間力をも備え、考える医療が実践できる歯科医師を育成していきたいと考えています。研究については、これまでの進めてきたものを引き続き継続・発展させたいと考えております。まず、細胞治療ですが、これまで骨髄由来の間葉系幹細胞を利用した歯槽骨再生治療を行ってまいりました。現状の骨再生研究においては既に有効性は

評価されていますが、医療現場にそのまま持ち込むとなるとコストを意識しなければなりません。これから細胞治療を容易にするためにも全自動培養装置の開発が望まれると考えており、その開発を進捗させていきたいと考えています。さらに、間葉系幹細胞だけでなく口腔領域の組織を由来とした iPS 細胞の作製にも取り組んでいます。既に歯肉由来と口腔粘膜由来の iPS 細胞の樹立にはほぼ成功していますので、これからは、これらのバンキングと間葉系細胞への分化誘導手法を進める必要があると考えます。これらが進捗すると非常に簡便に口腔領域におけるアログラフト材としての細胞利用が可能になると考えております。次に、足場の開発です。ポリ乳酸の糸でできた一本の繊維を三次元構造に編み込む足場

を開発してきました。この編み込み技術は一本の繊維でできているにも関わらず剛性も備えており、また細胞との接着能も高いので、細胞に適した設計が可能であり今後の治療に役立つことが期待されます。また、同じ足場ですが人工でできたコラーゲンの開発も進めております。これはポリリンとヒドロキシポリリンとグリシンの3重らせん構造を人工的に製造したもので、細胞治療に応用するために現在基礎実験を進めております。この材料は、既存の所謂ウシ・ブタ由来の天然コラーゲンとちがって生物由来原料基準に抵触しない完全な人工材料なので、引き続きこの優位性を活用した足場としての研究を続けていきたいと考えております。次に、リン酸三カルシウム結晶の α -TCPですが、これも再生医療に利用可能な設計について現在取り組んでいるところです。この材料は吸収性骨補填材として期待している材料です。既存の β -TCPは一年か

かっても骨に置換しにくいのですが、それと比較してより早期に新生骨に置換するマテリアルとして期待されます。この α -TCPの構造設計も現在研究中で、今後は成長因子と抱き合わせにすることで細胞治療に置き換わるような発展性のあるマテリアルになるよう研究していきたいと考えています。一方で、非吸収性マテリアルとしての骨補填材やインプラント材として応用可能なポリエーテルエーテルケトンの研究も進捗してきております。この材料は顎骨と似た力学特性を有していることから、これから純チタンやチタン合金に置き換わるインプラント体の材料への応用が期待されます。また、非吸収性の骨補填材としても有望な材料になると考えております。このように細胞と細胞の足場、成長因子、あるいは細胞に頼らないマテリアル、なかでもポリ乳酸、人工コラーゲン、 α -TCPといった吸収性材料から、ポリエーテルエーテルケトンのような非

吸収性材料まで幅広く研究・開発の対象とすることで、現状ではそれぞれ単独で利用しようとしています。今後は対象疾患の広がりに応じてiPS細胞、間葉系幹細胞、吸収性材料、非吸収性材料、成長因子などの組み合わせを展開していく必要があると考えております。次に、臨床ですが、口腔インプラント科にて平成23年から臨床マニュアルを作成してまいりました。このおかげで医局員のモチベーションが向上し結果として幅広い症例を扱うことが出来るようになりました。同時に埋入本数も増加いたしました。今後はこれを維持し、同時に、安全な臨床エビデンスを蓄積していきたいと考えております。これまでの経験で、十分な歯槽骨があればほぼ問題なくインプラントの埋入は可能であることはわかっていますが、そうではない患者様のほうが圧倒的に多いことから、インプラント治療のバリエーションが広がりつつあります。今までのように十分に埋入可

能な部位をさがしてインプラント体を埋入する時代から、埋入可能な部位をつくりあげてインプラント体を埋入する時代になりつつあります。しかしながら、その安全性のエビデンスはございません。さらに、サイナスリフトやソケットリフトの歯槽骨の増生法を組み入れた埋入法が増えているなか、どの治療法を選択すれば、どこまで安全に治療可能であるかのエビデンスはありません。これらの骨増生法を含めた新たな治療のエビデンスの構築は、臨床症例の豊富な大学病院でしかできないことから、対象を広げた臨床を積極的に実践していくことは重要であると考えています。一方で、本学附属病院は関西一円からの、開業医で埋入されたインプラントの不具合症例を扱うレスキューセンターとして重要な担い手となっております。インプラントを含む医療機器も不具合は、日本では医療機関もしくは製造販売業者が厚生労働省に不具合報告を提出する義務があり

ます。インプラントの破折症例はよく耳にする話ですが、それがこれまでは国には一つも報告されていませんでした。国への報告義務を知らない歯科医師にも問題がありますが、メーカーのコンプライアンスをインプラント医療の全体の問題として整備していく必要があると考えます。以上のように膨大な安全性に関するデータを大学において蓄積することで、インプラントを安全に埋入する臨床の新たなエビデンスを構築できていると考えています。そして、このようなビックデータの蓄積は医療費の抑制や医療行政にも有効活用できると考えます。さらに、本学口腔インプラント科は関西における唯一の専門治療科であることから、新たな専門医を育成する責務を担っております。安全なインプラント治療を実践できる歯科医師を養成するための施設として、多くの症例を積極的に経験してまいりたいと考えております。大学の将来に目標を置き、資質向上に邁進す

る所存でございますので、今後とも本学の皆様からのご指導・ご教示を賜りますようお願い申し上げます。

教授就任ご挨拶

歯科麻酔学講座 百田 義弘

大阪歯科大学主任教授会の選出および法人理事会の承認をいただき、平成27年2月1日付けで大阪歯科大学歯科麻酔学講座の主任教授を拝命いたしました。皆様、今後ともよろしくお願い申し上げます。

私は、昭和63年に大阪歯科大学を卒業後、すぐに歯科麻酔学講座に入局し約25年間臨床、研究、教育活動に取り組んできました。平成25年からは厚生労働省に入省し指導医療官として保険診療を中心とした指導に携わってまいりました。厚労省は、平成26年度の保険診療改訂に伴い、歯科医療の今後の展望として超高齢社会の到来を踏まえた口腔機能の回復、医科歯科



歯科麻酔学講座 主任教授

百田 義弘 ももた よしひろ

博士（歯学）／昭和 38 年 9 月 4 日生まれ 51 歳

<学歴>

- 1988年3月 大阪歯科大学卒業
- 1988年6月 第81回歯科医師国家試験合格
- 1992年3月 大阪歯科大学大学院歯学研究科 博士課程修了
博士（歯学）の学位を受領

<職歴>

- 1992年4月 大阪歯科大学助手（歯科麻酔学講座）
- 2003年4月 大阪歯科大学大学院助手
- 2003年6月 大阪歯科大学講師（歯科麻酔学講座）
- 2008年4月 大阪歯科大学大学院講師
- 2013年3月 大阪歯科大学准教授（歯科麻酔学講座）
- 2013年4月 厚生労働省四国厚生支局 指導医療官

連携を含めたチーム医療の促進を目標に掲げ、これまでの歯科医療技術の向上、評価とは少しニュアンスの異なる方針を打ち出しています。口腔という局所の機能回復、高度な先進医療を習得するには、全身的機能はもとより、生命科学のさらなる探求が求められています。患者に信頼される歯科医師を育成するとともに、歯科医学に対する探求心を常に持ち続ける歯科医師を今後も養成していくことが大学の使命であると考えています。

歯科大学においては、教育・診療・研究という3本柱がありますが、その中でも特に教育機関としての使命が大きいのではないかと考えています。歯科医師となるためには、様々な問題に対する解決型能力を有することと自学自習の態度が大切です。知的好奇心が旺盛な学生教育にあたっては、学ぶ側からの視点、すなわち、学生の持つ教育的価値とは何かということを常に念頭に置き教育に取り組んでいきたいと考えています。

歯科麻酔科は、周術期の生体管理学に視点を置き、手術室での全身麻酔業務だけでなく、外来患者の全身管理を通して安全な歯科治療を提供することにより、これまでチーム医療の一員としての役割を担ってきました。今後も

他科との連携を図り、安全な治療を提供できるよう全身管理に取り組んで参ります。チーム医療の推進にあたっては、診療科の枠を越えて医療スタッフが情報共有することでチーム医療の一員であることの自覚にもつながっていくのではないかと考えています。また、大学病院での高度な医療を支えるのは認定医・専門医の存在です。歯科麻酔科においても近年、認定医・専門医資格の取得を目的とした研修医が増えていきます。資格取得後も大学病院での臨床を継続できる環境作り、さらに今後、歯科臨床においても女性歯科医の活躍する機会が増えることから、大学病院での高度な医療に対し熱意を持った女性歯科医師がおおいに活躍できる環境整備にも積極的に取り組んでいきたいと考えています。

大学におけるもう一つの使命は研究です。歯科麻酔学講座の助手時代に米国ワシントン州立大学への留学機会を与えていただき、国際的視野から脳神経麻酔の研究に取り組んできたことは現在も私自身の大きな財産になっています。帰国後は、局所麻酔薬の中毒発現に関与する諸因子の解明に取り組み、その後も再生医療、脳循環代謝の分野において共同研究者、大学院生とともに多くの研究成果を報告してきま

した。歯科治療においては無痛治療、痛みの軽減というのは大きな研究課題であり、今後は神経の基礎的見地からのアプローチも必要と思います。我々の発見した虚血負荷により誘導される神経幹細胞の起源は、血管内皮細胞に近接するペリサイトであることが示唆されましたが、いまだ解明されていない点も多くあります。研究成果が臨床応用できることを目指し、基礎と臨床をつなぐtranslational researchに精力的に取り組むたいと考えていますので今後も講座間の垣根を越えて、ご指導頂けることを願っております。

臨床科学者としての基本的態度は、常に国際的な視野を持つことが重要です。そのためにはリサーチマインドをもった若い先生方にはおおいに留学をしてもらいたいと思っていますし、私自身もそれをしっかりと支援していきたいと考えております。

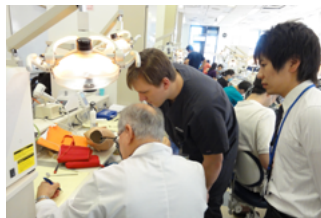
今後も大阪歯科大学の発展、歯科医療、歯科医学の発展に貢献できるよう努めてまいりますので皆様のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

国際交流

学生短期海外研修 コロンビア大学歯学部 2015.3.7 ~ 17

学生 8 名（5 年生）が歯科医学教育開発室・益野准教授並びに中央歯学研究所・本田講師の引率で、コロンビア大学を研修訪問しました。

研修内容は、特別講義・臨床見学を主体としたプログラムで、本学学生も積極的にディスカッションに参加したことにより、海外の歯科事情に触れる貴重な経験となりました。また、本学の学生とコロンビア大学の学生達がウェルカムパーティーなどを通じて友情を深めました。



認証評価

大学基準協会認証評価「適合」認定を受ける

本学は、公益財団法人 大学基準協会の 2014(平成 26)年度大学評価(認証評価)を受審し、平成 27 年 3 月 20 日付けで「評価の結果、貴大学は本協会の大学基準に適合していると認定する。認定の期間は 2022(平成 34)年 3 月 31 日までとする。」との通知を受領しました。

平成 10 年度(相互評価)、平成 19 年度(認証評価)に続く 3 度目の機関別、第三者評価(いずれも大学基準協会)となる今回の評価では、本学の建学の精神である「博愛公益」を具現する「社会連携・社会貢献」—公開講座の充実度や、国際交流を含む学術研究交流の継続とその展開などが「長所として特記すべき事項」として高い評価を得ました。その一方で、学部や大学院の教育内容・方法等につき幾つかの指摘事項が付されたことに対し、本学はこのことを謙虚に受け止め、当該規程を見直すなど早くも改善策に取り組んでいます。

このたびの評価結果を機に、今後は、本学の諸活動全般に関する自己点検・評価を十分に機能させることによって、内部質保証の充実を図り、大学全体の改善・改革をさらに加速していきたいと考えています。常に博愛公益を実現する大学創りを目指し、また「五つの力の目標」と「三つの力の追加目標」に向かって本学は今後とも弛まぬ努力を続けてまいります。

なお、今回の認証評価にかかる提出資料(自己点検・評価報告書、大学基礎データ)及び大学基準協会からの評価結果全文は、本学ホームページ <http://www.osaka-dent.ac.jp/about/evaluation> に掲載しています。

= 行事報告 =

12/4 (木)
16:00

附属病院 平成 26 年度 第 8 回 院内感染対策講習会

演題：歯科医療現場における標準予防策について

講師：森田 浩光 先生（福岡歯科大学 総合歯科学講座 准教授）

場所：創立 100 周年記念館

出席者数：教職員 124 名、第 5 学年 学生 94 名（全 104 名）、合計 218 名

今回の感染対策講習会は、創立 100 周年記念館 4 階大講義室並びに 3 階中講義室に中継するサテライト方式で開催し、3 階では本学第 5 学年の学生と第 5 学年の特別アドバイザーが聴講した。

開催にあたり、川添堯彬理事長・学長より挨拶が述べられ、西アフリカを中心に感染が拡大するエボラ出血熱や薬剤耐性菌等の感染症が人類に大きな脅威となる一方で、以前には気にもされなかったことに感染対策が講じられるようになった。感染対策の革新的な進歩と同時に最も基本的な標準予防策が医療現場で徹底されなければならないと語られた。

講演は、CDC(米国疾病予防管理センター)が提唱する標準予防策(スタンダードプリコーション)について、特に歯科医療現場における要点が説明された。森田先生が以前在籍されていた九州大学と現在所属しておられる福岡歯科大学で実施されている感染対策では、歯科医療現場の写真を基に説明があり、非常に興味深く分かり易い内容であった。4 階の教職員及び 3 階中講義室の学生も熱心に聴講していた。

質疑応答では、歯科衛生士実習生の臨床実習における鋭利な器具の取扱いについて、基本的には触らせないが、必要がある場合は指導医の監督のもと行うことが重要であることや、薬液を小分けする容器について適切なサイズのものを調査することなどが回答された。



12/11 (木)
17:10

附属病院 平成 26 年度 第 10 回 医療安全講習会

演題：みんなで取り組む医療安全

講師：安宅 一晃 教授（奈良県立医科大学 集中治療 / 医療安全）

開催場所：創立 100 周年記念館 4 階大講義室 / 出席者：110 名

人間は誰もが間違いをおかす生きものであり、医療の現場でも例外ではない。人は間違えるが、間違いに気づいて修正できればリスクを回避できる。思い込みによる誤認を自分で気づくのは難しく、自分以外のスタッフからチェックしてもらう必要がある。そのためには、他人から自分が何をしているかを見えるように明示化することと、他のスタッフが間違いを指摘できる雰囲気が必要である。エラーを防ぐために大切なチーム医療、ノンテクニカルスキルについて語られた。

講演は終始ユーモアがあり、あっという間の 1 時間であったが、医療安全スキルから、人間とはどういうものかということ、認識できないことを認識し、他人にチェックしてもらうことで認識できることがエラーを防ぐための出発点となっている等、簡単なようで奥の深い内容であった。



12/17 (水) 附属病院 平成 26 年度 文部科学省 医学教育等関係業務功労者の表彰について

文部科学省による医学教育等関係業務功労者表彰は、医学又は歯学に関する教育、研究若しくは患者診療等の補助的業務に関し、顕著な功労のあった方々に毎年贈られるもので、大学の長が、「人目につかない領域にあって苦勞の割に報われることが少ない者、業務内容が著しく危険性の高い環境若しくは一般に人が従事することを好まない環境において業務に従事している者」かつ、「現に同一職種の業務に熱心に従事し、その功勞が顕著であり、他の模範となっていること」を基準として推薦し、大学から推薦された候補者の中から文部科学大臣が決定する。

本学からは、高田橋美幸（歯科衛生士長）と西村元彦（歯科技工士長）の2名を推薦し、11月20日（木）にホテルフロラシオン青山で表彰式が行われた。本学の推薦理由は、長きに亘り勤務に精励し、自らの業務に自覚と使命感をもって、多数の患者の歯科治療の補助的業務に従事した功績を評価し、上司、同僚間からの信任、他の模範となる行動など歯学教育の補助者として貢献した功績が顕著であるとして推薦した。

功勞者表彰報告が12月17日（水）に病院長室で行われ、榮譽を称えて覚道病院長、山本副病院長と共に記念写真を撮影し、日頃の勞苦が勞われた。



附属病院 病院勤務の医療従事者向け認知症対応力向上研修について

【第1回】 開催場所
H26 12/17 (水) 摂津市立コミュニティプラザコンベンションホール

【第2回】 開催場所
H27 2/18 (水) 大阪市立天王寺区民センターホール

標記の研修は、大阪府によって病院勤務の医師、看護師等の医療従事者に対して開催されたものです。病院での認知症の人の手術や処置等の適切な実施の確保を図ることを目的に、認知症の人や家族を支えるために必要な基本知識や、医療と介護の連携の重要性、認知症ケアの原則等の知識を修得する研修会です。当院では、6名が受講し松井一郎大阪府知事より修了証書の交付を受けました。



入江看護師主任、中塚看護師主任、山田看護師、福井看護師長、
高齢者歯科高橋准教授、覚道病院長、高齢者歯科渋谷助教

12/26 (金) 15:00 大学行事 平成 26 年度 教職員忘年慰労会

恒例の教職員忘年慰労会が附属病院本館 14 階「プラザフォーティーン」で開催され、130 名を超える教職員が参加しました。

川添理事長・学長から開会の挨拶と教職員への労いの言葉があり、続いて下村常務理事の乾杯の音頭により忘年慰労会がスタートしました。

しばらく歓談のときが流れ、お楽しみ抽選会では、理事長賞（旅行券）が高齢者歯科学講座の高橋一也准教授、学長賞（商品券）が有歯補綴咬合学講座の田中順子准教授、図書カードが看護師の福澤主任ほか2名の教職員に贈られました。

最後に、田中常務理事からの閉会の言葉で、1 年の様々な感慨とともに、すばらしい 1 年の締めくくりとなりました。



1/11(日)
1/12(月・祝)

附属病院 第 10 回 大阪歯科大学附属病院歯科医師臨床研修指導歯科医講習会

主催者：学校法人 大阪歯科大学 理事長・学長 川添 堯彬
共催者：一般財団法人 歯科医療振興財団 理事長 川添 堯彬

講習会主催責任者の川添 堯彬理事長・学長はじめ本学教職員スタッフ 20 名により、「歯科医師の臨床研修に係る指導歯科医講習会の開催指針」(平成 16 年 6 月 17 日付け医政発第 0617001 号)に則った内容で開催。専任医員及び一般応募者の 28 名が受講し、全員が所定のプログラムを修了し修了証書が授与された。



1/28 (水)
1/29 (木)

附属病院 平成 26 年度 第 3・4 回 医薬品安全管理講習会

演題：医薬品の適正な取り扱いについて

講師：医薬品安全管理責任者 上中清隆 薬剤師長

場所：創立 100 周年記念館 4 階大講義室

受講教職員数：1/28(水) 102 名 1/29(木) 156 名 合計 258 名

副病院長森田章介主任教授よりご挨拶、講師紹介をいただき、医療法の規定により「年間 1 回以上受講する必要がある講習会」との案内をされた。なお、受講機会を増やす等のため 2 回講習を開催した。

医薬品の適正な取り扱いについて、法令法規並びに保健所の指摘事項等を報告、管理や対応等について注意、解説された。



1/30 (金)

地域連携 枚方市の健康医療キャラバン事業への参画

枚方市が行う健康医療キャラバン事業の一環として、大阪歯科大学歯科衛生士専門学校の 2 年生の生徒と大阪歯科大学附属病院総合診療・診断科の臨床研修歯科医が枚方市御殿山にある高陵小学校を訪れ、5 年生と、6 年生の児童を対象とし、口の健康教育を行った。

最初に臨床研修歯科医がスライドを用いて、虫歯や歯肉炎の発症や予防法について説明し、続いて衛生士学校の生徒が媒体を用いて、ブラッシングなどの予防法を指導した。実地指導では生徒だけでなく、研修医も子供たちの間に溶け込み、熱心に教えている姿がほほえましかった。子供たちへの指導後のアンケート調査から口の健康の大切さとその予防法についてよく理解してもらえたことが分かった。研修医にとっては地域医療に触れる大切な体験であったと思われる。また、衛生士学校の生徒にとっては、研修医の子供たちへのアプローチの仕方が新鮮で、子供たちとのコミュニケーションの取り方の参考になったのではないと思われる。来年度以降も本プログラムは実施される予定である。



2 / 5 (木)
16:15

附属病院 平成 27 年度 歯科医師臨床研修 情報交換会

場所：大阪歯科大学附属病院 本館 14 階 プラザ 14

主催：大阪歯科大学 学生部

出席者：現研修歯科医 36 名、大阪歯科大学附属病院歯科医師臨床研修プログラム C (複合型) の研修予定者 76 名

田中昌博学生部長、覚道健治病院長の挨拶後、現研修歯科医と研修予定者が臨床研修について情報交換を行い、中締め、閉会後も活発な交流が行われ盛況であった。

現研修歯科医より管理型及び協力型での研修について、直接状況が聞け、またアドバイスも受けることができるため、例年実施しているアンケートではとても好評である。



2/14 (土)

附属病院 第 12 回 大阪歯科大学附属病院 病診連携講演会・懇談会

場所：西館 5 階臨床講義室

平成 26 年 1 年間の患者紹介医療機関：2506 施設

施設の出席者数：講演会 71 名、懇談会 49 名

覚道健治 病院長挨拶、当院の初診患者・総合受付等のご案内、院内診療科等の紹介後、小児歯科 有田憲司 科長が「当附属病院小児歯科紹介患者の特徴と対応について」講演を行いました。参加者から全身疾患を有する難症例等の質疑もあり、対応法を回答した後、その様な症例も遠慮なく当科に紹介いただくよう案内しました。

その後、本館 14 階レストラン プラザ 14 において、懇談会を開催し、情報交換するなど、交流を深めました。



取り組み 第 22 回 大阪歯科大学公開講座（枚方講座）

「超高齢社会への歯科の取り組み」

平成 26 年 9 月に創立 100 周年記念館で行われた天満橋講座に引き続き、枚方講座が、楠葉学舎講堂にて開催されました。

【講 座 1】
2/21 (土)
10:00

大規模災害における口腔ケアの重要性—南海トラフ大地震に備える—
神戸常盤大学短期大学部 口腔保健学科 足立了平 教授

講師の足立了平先生は、阪神・淡路大震災でのご自身の体験や東日本大震災の被災者支援の経験から、災害時の歯科の役割として「関連死」をなくす取り組みを紹介し、避難所における口腔ケアやその具体的備えなど、大規模災害時における口腔ケアの重要性について、豊富なデータをもとに私たちのとるべき行動について、丁寧に解説してくださいました。



【講 座 2】
2/28 (土)
10:00

信頼できる「かかりつけ歯科医」とともに
大阪歯科大学 高齢者歯科学講座 高橋一也 准教授

講師の高橋一也先生が、歯科は我々のライフサイクルの中でとても身近な医療であること、また「かかりつけ歯科医」をもつことがなぜ大切なのかについて、データに基づいて解説し、自分の口をいかにうまくマネジメントしていくかを、わかりやすく教えてくださいました。



【第 22 回 大阪歯科大学公開講座（枚方講座）アンケート結果 ※一部抜粋】

質問項目	満足	ほぼ満足	普通	やや不満足	不満足
公開講座を聴講してのご感想	59%	36%	4%	1%	0
抄録集の内容	48%	42%	9%	1%	0

- ・災害時の関連死対策について、具体的な話を聞かせていただき、大変参考になりました。
- ・非常に時宜を得たテーマと来るべき大災害への備えとして、学習すべきテーマでした。正に口（口腔内）は万病の元（玄関口）であることを再認識しました。
- ・もっと早くお話を聞くべきでした。誤嚥性肺炎には衝撃的でした。
- ・いつも良い先生で丁寧に教えていただいてとてもありがたいです。これからもしっかりと勉強します。そして人生を楽しみたいと思います。また人のためになれたらと思いました。
- ・介護福祉士として、口腔ケアの重要性を改めて知りました。職場で活かしたいと思います。また、自宅での両親の口腔ケアにも活かしたいと思います。
- ・高橋先生の講義しか受けられなかったのですが、大変講義がお上手で聞きやすく解りやすい講義でした。ありがとうございました。スライドも多く準備いただいたようで、今回あまり触れられなかったスライドについても聴きたかったです。
- ・今後も役立つことがいっぱいあり守っていきます。

2/26 (木) 16:30 附属病院 平成26年度第3回医療機器安全管理講習会

演題：歯科チェアユニットの安全な取扱いと最新のインフェクションコントロール
 講師：株式会社モリタ製作所 プロダクトマネージンググループ 吉川 政幸 氏
 場所：創立100周年記念館 4階大講義室
 受講教職員数：179名

医療安全管理委員会委員長有田憲司教授(医療機器安全管理責任者)よりご挨拶をいただき、医療法の規定により「年間1回以上受講する必要がある講習会」と案内され、開催しました。

講演内容は、演題のとおりで改めて歯科チェアユニットの安全管理使用と感染防止対策について再認識できました。



平成27年 新年互礼会

平成27年1月5(月)午前11時より平成27年新年互礼会が楠葉学舎講堂で開催されました。

教職員をはじめ関係者多数が出席し、川添理事長・学長による年頭所感に耳を傾けました。川添理事長・学長は、本学のこれまでの実績と今後の方針について、スライドで示しながら述べるとともに、大学のますますの発展・社会貢献にむけての具体的な方策をお話されました。その後、食堂での交歓会では、それぞれ新年の挨拶を交わし、一年の始まりを祝いました。

年頭所感

理事長・学長 川添堯彬

皆様、新年明けましておめでとうございます。まず最初に、本年の互礼会にご臨席くださった皆様へ厚く御礼申し上げます。大変光栄に存じますとともに、感激で一杯でございます。

平成27年は乙羊(きのとひつじ)歳にあたります。この年は皆様にとりまして、どのような年になってほしいでしょうか？ 私にとりましては、干支はどうあれ、どのようなときにあっても、この大阪歯科大学の継続的躍進が願いであり、目標でもあります。そのための大学改革を目指します。この想いを、次の年頭の言葉に込めました。すなわち、「羊辛抱、逆風なりとも、勇往あるのみ、前向き前進、前向き邁進、改革続けて、開花を期する、大阪歯科大学」本年も何卒よろしく願い申し上げます。

では引き続き、歯学教育、歯科大学の現況と27年度事業計画の概要につき、パワーポイントで説明させていただきます。[1]

昨年は平成26年甲午(きのうま)歳で、私も年男でございました。この1年を振り返り、比較的進歩した、達成した項目を黒丸で記してございます。[2]

まず、国家試験の成績が、17年ぶりに全国平均を超えました。これは、非常に嬉しく、今年も今月の終わりに実施される第108回国家試験に期待しているところでございます。6学年の学力が明らかに向上し、5学年、4学年と、これに続いて順次上がってくれることを願っております。

しかしながら、留年率は、客観的な評価としましても、全国でも1位、2位のワーストに入るぐらい多く、今後の改善目標として積み残しております。

それから、人間性涵養力については、カリキュラム2000の態度教育にも挙げておりましたけれども、学生部のご尽力により、今年4月からODUソーシャルコミュニティ活動を本格実施いたします。これは毎朝8時～8時半に楠葉周辺の清掃活動

年頭所感

平成27年1月5日(月)

大阪歯科大学
理事長学長 川添堯彬



[1]

昨年は
平成26年 甲午歳

達成結果：

- 国試成績17年ぶりに全国平均を超えました。
- 6学年の学力が明らかに向上しました。
- 留年率の改善へあと一歩
- 人間性涵養力への注力
- 卒前学生の研究マインド養成へ注力
- 附属病院の「財務改善」はこれからの課題。

[2]

と通行人への挨拶を行うもので、学生、教職員ともに順番に参加します。私も清掃活動に参加したいと思います。机の上で医療倫理を説くばかりでなく、黙って行動をとともにして、将来、患者さんの気持ちを酌み取れる良心を育てる第一歩にしたいと思っており、この活動に大いに期待いたしております。

それから、文科省の勧めもあり、今後は学部生のうちから研究室へもっと通うようにするために、3年生、4年生もゼミや各研究室へ行って研究が始められるような体制を整えていきます。将来開業を目指す歯科医師も、あるいは研究者を目指す歯科医師も、ともに研究マインドを養成していく。これも、学生部の努力でもって、来年度から新しいカリキュラムとして始まります。

附属病院の財務改善は、これからの課題として残っております。

いよいよ平成27年、2015年が始まります。[3] 平成27年は乙未（きのとひつじ）歳です。乙というのは「地はぬくもりの滋雨で潤う」ということで、種子は殻を破り芽を伸ばそうとするが、なかなか一歩踏み出せない、迷いがどうしても起こる、なかなか決断できないという運勢があるそうです。未も、いまだ枝葉は若葉が残っている、伸びつつあるけれども、なかなか花が咲くというところまではいかない、という運勢です。そういったことで新旧の潮流の激突が多い年になろうという運勢が出ているようです。少しでもそれを打ち破るために、斬新な発想や連携協力を広げ、共同システムを変革する時期だと思っております。

そこで、冒頭で述べました「乙羊辛抱」という言葉を掲げました。[4] これは、忍の一字ということではなくて、次なる飛躍に向けて充電し、いつでも飛び出せるよう準備万端整えるということです。相変わらずの逆風であっても前向きに進んでいく、さらに邁進していく、やがては結果が結実するという願いが込められています。

さて、私立大学、特に、国家試験等がある医療系（医学部・歯学部など）の私立大学では、一般の私立大学とはまた違った使命を文科省あるいは政府から担っているわけでございます。それを、ちょっと復習してみたいと思います。[5]

従来は私立大学というのはまず建学の精神に沿った教育をすれば、それで合格点があったわけでした。国立大学との大きな違いとして、国立の建学の精神は政府の方針そのものでありますけれども、私立はそれぞれ特色ある建学の精神を持っている、ということ。そして、大学によって各々の教育方針を持っているというのも私立大学の特徴です。それから、教育研究目標というのがあります。本学では五つの力（りよく）の目標と三つの力の追加目標というのを立てております。三つのポリシーというのもあります。これも文科省あるいは大学基準協会から明示のお達しがあったものです。入学者の受入方針はアドミッションポリシー、6年間の教育課程の方針はカリキュラムポリシー、どんな卒業生を輩出し、社会に送り出すかについてがディプロマポリシーです。

医療系の大学、特に私立歯科大学にとって今、何よりも悩まされているのが、文科省が求める事項です。「文科省からの通信簿」と一般に呼んでいますが、事細かに大学の中身を覗かれ、理事長が面談を受けて、太鼓判を押してくれるまで、ずっと調査が続きます。

本学には明治44年12月12日に藤原市太郎先生によって残された「博愛公益のために努力すること」という立派な建学の精神があります。[6] これはこの度の3回目の大学基準協会の視察でも褒められました。

教育方針につきましては、「Science, Art & Heart」を掲げており、学生たちにこの6年間で身につけてもらう。[7] “Science”は専門知識、日々進歩する歯科医学の専門知識を教えます。“Art”は歯科医療の先端技術、主に手や口を動かして行う先端の歯科医療技術を身につけさせます。そして“Heart”、これが本学の教育方針の最大の特徴でもあるわけですが、いたわりの心、思いやりの心を育みます。この“Heart”が、本学受験の動機にもなっているようであります。思いやりの心を持つ

今年は

平成27年 **乙羊** 歳

乙（きのと）：「地はぬくもりの慈雨で潤う」、
「種子は殻を破り芽を伸ばそうとする」

・迷いを取り払い、決断へ向ける。

羊（ひつじ）：「未だ枝葉は若葉が伸びる」、
「新旧の潮流の激突が多い」

・斬新な発想、連携協力、共同システム変革の時期

[3]

乙羊辛抱
逆風勇往
邁進開花
大阪歯大
平成二十七年
元旦

[4]

＜私立歯科大学の使命＞

- 1)「**建学の精神**」,「**教育方針**」
- 2)「**教育研究目標**」,「**3ポリシー**」
- 3)「**文科省が求める事項**」

[5]

学校経営事業は営利に非ず
博愛公益のために努力する
ものなること
創立者 藤原市太郎
明治四十四年十二月十二日

[6]

た歯科医療人を育てる大学、それに加えて、グローバル教育に力を入れているという点、この二つが今の高校生から非常に評価されているようでございます。

教育研究目標については、毎年挙げております五つの力と三つの力、合わせて八策を提示しております。これはだいぶ実現してまいりました。[8]

一つ目の「募集ブランド力の向上」このブランド力が最近少し落ちてきまして、2倍を切りましたが、学力はだいぶ向上してきましたので、引き続き軌道に乗って、効果が出るのはこれからだと考えております。

教員人材育成につきましては、大学院を出て、あるいは一般の研究者として、卒業後に本学に残って、教員人材として育成されている具体例が出てきております。そして、学生の国際交流力の増強については、文科省も言及していなかった時代に、本学が過去の実績も踏まえて、これを掲げたところ、最近では文科省がほかの大学もこれをやりなさいと言っている。

今年から特に力を入れないといけないうのは、教育力です。従来の、先生目線あるいは講座中心の教育からなかなか脱却できていない現状があります。最近はアクティブラーニングをはじめ、小、中、高でも、いろいろな教え方の技法として双方向での教育が求められています。本学もこれに本格的に取り組む時だと思っています。人間性涵養力は、先ほど一つの例を示してお話したとおりです。

それから、大学院生をもっと増やそうということで、例えば東京歯科大学では、各講座が大学院生の引き抜き合戦をやるわけです。全国の歯科大学では、学部受験生の引き抜き合戦になっておりますけれども、さらに大学院受験生を海外からの受験者も含めて多く増やすことが、研究力、あるいは大学力を高めるのに、ぜひ必要だということで、今後もっと魅力ある大学院を構築しなければいけない。本学では優秀な学生に対する、さらに高い指導力・教育力が発揮されていなかったことを反省し、今後も大学院に力をいれていこうと思っております。

大学の三つのポリシーにつきましては、本学ホームページに詳しく掲載しております。[9]

問題は文科省が求める事項が、大学のランキングを決めたり、最近では入学定員まで影響しているということです。

まず求められているのは、医療系大学の質保証です。質を担保せよと大きく言い始めました。「質」とは何ぞやということですが、歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議の第1次報告が平成21年1月に出され、四つの骨子が発表されました。[10]これが「文科省通信簿」の採点表へとつながってくるわけですが、昨年9月に下村文科大臣が教育再生に関するグラウンドデザインを発表したときも、歯学教育の改善はこれに沿って進めるようにと言っております。

そして26年2月24日、1年前ですが、調査研究協力者会議から出された内容が今現在最新の提案であり、要望であり、文科省の政策でもあります。その中で、何度も口酸っぱく言われるのが、診療参加型臨床実習の充実です。臨床実習では自験が推奨されていますが、本学では、なかには見学実習に留まるところもあり、科によって達成されているところとそうでないところがあるとの評価を受けました。もう一息ということなんです。

2点目は、多様な歯科医療ニーズに対応した歯科医師養成ということで、本学でも最近開設した歯科法医学室を含め、スポーツ歯学など、新しい分野がどんどん増えてきているので、将来的にこういう講座をつくりましょう、少なくとも研究室をつくって、教授を置きましょうという提言。これは合格しています。

3点目は、教育活動等に関する情報の公表です。これは文科省が調べたデータがホームページで公開され、各大学の弱み強みがさらけ出されているような状態で、これが受験生の志望校選びに使われてしまうということで、じわじわと首を絞めてくるような感じで迫ってきているわけです。

4点目は、認証評価を二つ入れなさいということで、一つは、機関別認証評価で、

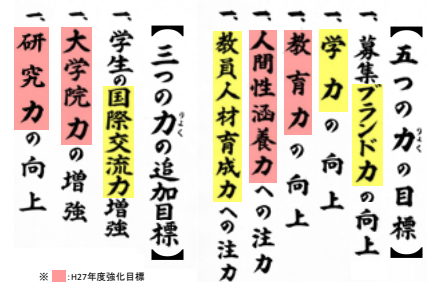
1b)教育方針

『Science, Art & Heart』

(専門知識, 医療技術

& 労りの心・思いやりの心)

[7]



[8]

2b)大学の3ポリシー

アドミッションポリシー

- 歯科医師として社会に貢献し奉仕する使命感と気概を持つ人
- 専門的知識、技能、態度を修得するために着実に努力する人
- 国際的な視野に立って歯科医学の発展と歯科医療を担う熱意のある人

カリキュラムポリシー

- 知識、技能および人間性をもった歯科医師の養成を行うカリキュラムを編成しています
- 学生が意欲をもって学習でき、国家試験への備えとしても万全の科目を設けます
- 学生中心主義に基づき、学生と教職員とのふれあいの場を数多く設置します
- 患者さんへの思いやりや温かな心をもった歯科医師の育成に必要な教育を行います

ディプロマポリシー

- 専門的知識、技能、態度を修得し、国民の健康的な生活を確保する能力を身につけている
- 汎用能力および危機管理能力をもち、絶えず研鑽を積み習慣を身につけている
- 地球規模で新時代の歯科医学と歯科医療を構築する能力を身につけている

[9]

歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議 第1次報告 (H21.1) 概要	
改善方策	
1. 歯科医師として必要な臨床能力の確保	●診療参加型臨床実習の単位化の検討、卒業時到達目標や卒業後臨床実習の連携化
●到達目標の設定や成績評価の実施が不十分	●臨床実習終了時の各大学でのOSCE(客観的臨床能力試験)の実施
●患者の協力試験、臨床試験対策のための診療参加型臨床実習の時間確保が不足	●学生が積極的活用した臨床実習の促進
2. 優れた歯科医師を養成する体系的な歯学教育の実施	●各大学の体系的な教育課程の編成の徹底、成績評価・進級・留年の厳格化の実施
●各大学の教育の特色が希薄化	●歯学教育モデルコア・カリキュラムの策定
●共同試験の後に歯学化臨床実習が分離	●歯学教育の質を確保する第三者評価の導入
3. 歯科医師の社会的需要を見据えた優れた入学者の確保	●入学希望者の方針の明示、入試選考情報の公開
●入試の選抜権限が低下する大学	●成績の公表、良否との連携等、学生の適性を見極める各大学の入試改革
●歯科医師適性が高まるという能力低下に影響	●優れた入学希望者が明確な大学、国家試験合格者の高い大学への入学意欲を喚起
4. 未来の歯科医療を拓く研究者の養成	●学制教育の中で研究に携わる機会の拡充
●基礎と臨床が融合された研究等が必要	●歯学系大学院の招得や教育内容を、臨床歯科医、研究者の養成目的に応じて明確化
●学部段階から研究マインドの育成が必要	●国際的に優れた歯学研究者養成のための、大学の特長を踏まえた教育制度

[10]

歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議【提言・要望】	
平成26年2月24日 歯学教育の改善・充実に関する調査研究委員会	
1. 診療参加型臨床実習の充実	〈未〉
2. 多様な歯科医療ニーズ等に対応した養成	〈合〉
3. 教育活動等に関する情報の公表	〈合〉
4. 歯学教育認証評価の導入	〈合〉
5. 平成26年度以降のフォローアップ調査	〈ほぼ合〉
6. 歯学部入学定員削減	〈未〉

[11]

もう一つは分野別の歯学教育認証評価。そのどちらに対しても本学はクリアしています。詳しくは後ほど申します。

5点目は、フォローアップ調査の実施。26年度以降もフォローアップ調査がやってくるかどうか、今年の3月までに決まるようであります。1月中に書面審査を提出して、それに合致していないところは、もう一度またフォローアップに来るということですが、本学はほぼ合格です。

6点目は、歯学部への入学定員削減です。これがじわじわと、特に歯科大学を苦しめてまいります。1名減らすだけでも、財源が非常に圧迫を受けるということは、どの私立歯科大学も痛いほど承知しているのです。これは本学は不合格ですが、歯科大学の存亡に関わることでありますので、私立歯科大学協会、私立歯科大学全員で闘うべき問題でもあります。

歯科医師の需給というのは、思い起こせば、随分古くから言われ始めていました。[12] 昭和 57（1982）年 9 月にはじめて閣議決定され、医師も歯科医師も過剰を招かないように適正水準にすべきであるという結論、報告を出しました。昭和 61 年には、厚労省は歯科医師についてのみ、平成 7 年を目途に国公、私立を問わず最低限でも 20%削減を提示しました。62 年 9 月には文科省でも平成 7 年を目途に 20%程度抑制すべきという最終まとめを出しました。平成 10 年になると、新規参入をさらに 10%程度抑制すると言いはじめました。これをまともに実行しますと最大 30%減になって、国立大学の場合は最大 35%ほどの削減ということになります。私立は最終的に 28%で止まっておりますが、文科省はさらに削減する必要があると言っております。平成 18（2006）年には、今度は文科省と厚労省の両大臣が、国家試験合格基準の引き上げについて、確認書に合意しました。このときから国家試験が急に難しくなり、今日に至っております。厚労省は削減 20%、プラス 8%程度、ここでは 10%ですが、これでとまっている。文科省も 28%でとまっているということでもあります。28%といいますと、本学は昭和 61 年で 160 名だったのが今は 128 名になっており、それをさらに 8%削減すると、115 名という人数になります。これは経営上非常に苦しくなる。10 年もつかどうか、赤字が出るような苦しくなる数字であります。平成 20（2008）年には、厚労省が文科省との連携で必要な対策を講じるというビジョンを打ち出しました。常に、国公、私立全て同じようにやりなさいと言っております。平成 21（2009）年には入学定員の見直しを検討するという提言がありましたが、28%に削減している私立歯科大学は 3 校ぐらいで、あとは 20%どまりで、今後の努力でということになっております。これが今、一番頭を悩ませている問題であります。

歯学部の削減状況は現在、平均すると私立で 24.9%、国立は 35%程度。公立は 1 校しかないの、あまり減らせませんが、20.8%ですから、あと 7.2%減らさないといけない。合計 27.2%の削減率です。[13]

それでは、本学の達成状況はどうかと言いますと、黒丸のついている項目は、まだ基準をクリアしていないところ。[14] 5 項目のうち、本学の状況で一番クリアできていないのは、入学定員削減の項目です。削減状況は 20%、128 人ですから、黒丸がついています。2) 入学定員の充足率は、100%なので、これはクリアしている。3) 競争倍率は 2 倍以上ないといけませんので黒丸。受験時には 4 倍、5 倍もあるのになぜ結果的には 2 倍を割るのかというと、上位の方が全部、医学部や国立へ抜けてしまう。それで、補欠を入れる。そうすると合格が増えてしまい、2 倍を割るという結果になっております。これに関しては手を打っておりますので、今年はどうなりますか、おそらく 2 倍に上がるのではと踏んでおります。4) 国家試験合格率も 75.5%で、17 年ぶりに全国平均を越えました。もう 1 年連続して全国平均を越えれば、黒丸が全部消えます。今年の国家試験受験者にかかっています。問題は既卒者です。こちらは全国平均を下回っています。これを上げるには少し時間がかか

歯科医師の需給をめぐる最近の議論	
●1982(S57).9	閣議決定「過剰を招かないように適正水準にする」
●1986(S61).7	厚生省「H7を目途に最小限20%削減すべき」
●1987(S62).9	文部省「H7に20%程度に抑制すべき」最終まとめ
●1998(H10).5	厚生省「新規参入をさらに10%程度抑制すべき」報告
●1999(H11).2	文部省「医師・歯科医師の入学定員をさらに削減する必要」(第4次報告)
●2006(H18).8	文科省、厚労省の各大臣、「確認書」合意。「 <u>国試合格基準引き上げる</u> 」
●2006(H18).12	厚労省「削減数20%+8%程度の早期実現を」
●2008(H20).6	厚労省「文科省との連携で必要な対策急ぐ」ビジョン
●2009(H21).1	文科省「 <u>入学定員の見直しを検討する</u> 」(第1次報告)

[12]

歯学部における入学定員削減状況(国公私立大学)				
	1985年度 (S60)	2014年度 (H26)	削減人数	削減率
国立	860	562	298	34.7%
公立	120	95	25	20.8%
私立	2,400	1,803	597	24.9%
合計	3,380	2,460	920	27.2%

[13]

平成26年度 入学状況及び国家試験結果																				
大学名	B. 入学定員削減計画					C. 入学定員(募集定員)充足率					D. 入学希望者競争倍率					E. 国家試験合格者率(新卒)		F. 最低合格者率年度で国家試験合格者率(編入生除く)		
	H26入定のS50に対する削減率	H26年度	H25年度	H24年度	H23年度	H26年度	H25年度	H24年度	H23年度	H22年度	H26年度	H25年度	H24年度	H23年度	H22年度	H26年度	H25年度			
大阪歯科大学	20.0%	●	100%	100%	100%						1.83	1.87	1.91	●	64.0%	74.2%	75.3%	●	47.7%	52.1%
合計	27.2	12	95.4%	96.0%	98.0%	5	2	3	2	2	2.02	2.16	2.49	●	81.4%	80.4%	73.3%	11	59.7%	53.8%

● 削減率10%以上(20%未満)

○ 削減率20%以上(30%未満)

△ 削減率30%以上(40%未満)

□ 削減率40%以上(50%未満)

◇ 削減率50%以上(60%未満)

◇ 削減率60%以上(70%未満)

◇ 削減率70%以上(80%未満)

◇ 削減率80%以上(90%未満)

◇ 削減率90%以上(100%未満)

◇ 削減率100%

○ 競争倍率1.5未満

○ 競争倍率1.5以上(2.0未満)

○ 競争倍率2.0以上(2.5未満)

○ 競争倍率2.5以上(3.0未満)

○ 競争倍率3.0以上(4.0未満)

○ 競争倍率4.0以上(5.0未満)

○ 競争倍率5.0以上(6.0未満)

○ 競争倍率6.0以上(7.0未満)

○ 競争倍率7.0以上(8.0未満)

○ 競争倍率8.0以上(9.0未満)

○ 競争倍率9.0以上(10.0未満)

○ 競争倍率10.0以上

H26.5 文部科学省大学教育評価委員会(平成27.3.31)

[14]

「日本における評価制度」	
1.学校教育法第109条等に基づく評価	
(1) 自己点検・評価	〈合〉
(2) 認証評価(機関別認証評価)	〈合〉
「大学基準協会」過去3回「適合」	
(3) 第三者評価(専門分野別認証評価)	〈合〉

[15]

りそうです。この赤い星印のところを何とか改善しないと、文科省の基準はクリアできません。

さて、認証評価への本学の取り組みについてですが、こちらは成績優秀です。[15] 日本における評価は三つあり、このすべてにクリアしなければいけませんが、機関別認証評価は、本学では過去に2回受け、今回3回目も昨年内定を得ております。3月には大学基準協会から正式に合格がいただけると思います。分野別評価、これは新しくできた認証評価ですが、これは国際標準に合うような認証評価で、各学年の学生、病院スタッフなどいろんな人と面接して、縦、横、斜めと徹底的に調査されるトライアルを本学は受けました。こちらほぼ合格しております。

平成24年度から文科省のお達しで歯学教育認証評価の導入が進められ、そのトライアル実施校として本学と九州歯科大学が選ばれて、とても名誉なことだと思っております。これは昨年10月に済み、関係者各位、教員、総務課などいろんな方の努力でクリアすることができました。[16]

昨年6月の国会でガバナンス改革というものが決議され、国立大学ではまず学長の権限を、その大学の教員の投票だけで決めるのではなく、選考委員会を開いたうえで理事会等で決めるということになりました。これに伴い、学校教育法の一部改正、国立大学法人法の改正があり、そのために本学も学則を変える必要が生じ、現在案を作成中であります。3月までに通して、文科省に提出しないといけない。大阪歯科大学教授会及び主任教授会規程についても4月1日改正分を3月中に準備しなければならない。その他のガバナンス改革は今後の問題として、上記2点はどうしても3月中に対応しなければいけません。[17]

平成27（2015）年度事業計画

さて、ここからは例年やっております本年度の事業計画であります。昨年度から変わったところだけを申し上げます。

I. 教学（学部教育）の改革

先ほどの文科省の通信簿にもあります通り、入試倍率をとにかく2倍以上にアップすることが喫緊の課題であります。新しい科目を入れることを考えております。文科省にもPRでき、本学の特色あるものとして、平成27年度よりODUソーシャルコミュニティ活動を開始、周辺清掃、挨拶を全員参加で行う。5、6年生についてはまた来年以降検討しますが、1～4年までの主に楠葉学舎で勉学する人は授業としてこれを行います。[18]

研究力チャレンジは、研究の入門編だけでも、基礎系の講座に通ってもらって、早いうちから小さな研究を体験できる環境を整えます。

そして、SCRPについては、本学は過去に何度か1位になるなど輝かしい実績をしておりますが、今までは成績優秀な学生が主体であったので、今後はもっと広く参加できるように、先生方にもご尽力いただいております。

それから、全国模試をできるだけ多数回受験できるようにする。[19] 半分義務化しつつありますが、有料ですので受験料を大学が負担する場合があります。これを受けると全国の順位もわかりますし、苦手科目も明らかになるので、国家試験を控えた6年生の成績分析には非常に便利がいい。あとは既卒者です。15年も20年も前に卒業した人が受験した場合でも大阪歯科大学の受験生としてカウントされますので、現役が頑張っても、既卒者の方で平均点が落ちたりする。そこではじめは特別聴講生として200万円の授業料で受け入れていたのですが、今は無料だから勉強しに来なさいと呼びかけております。それで、2～3年目で少し心が打ち解けてきて大分顔も明るくなり、徐々に効果が出てきております。

医学・歯学分野への第三者評価導入に向けた取組②

24年度の主な取組状況

- 歯学教育認証評価検討WG、幹事会 開催
- 諸外国での認証基準と認証評価の調査
- 評価項目検討のためのWS開催(12月)
- 公開シンポジウムの開催(3月)

25年度の主な取組状況

- 諸外国での認証基準と認証評価の視察・調査
- 事業に関するホームページの開設
- 評価基準トライアル版(案)の作成(2月)
- 評価(トライアル)実施大学における自己点検評価の開始(済)
(九州歯科大学、大阪歯科大学)
- 公開シンポジウムの開催(2月)
- 評価実施要綱(案)の検討

医学・歯学分野への第三者評価導入に向けた取組③

26年度の主な取組予定

- 事業評価WGを開催し、事業の中間評価を実施
- 評価実施組織会議の開催
- 評価実施者養成ワークショップの開催
- トライアル外部評価の実施(済)
(大阪歯科大学、九州歯科大学)
- 諸外国での認証基準と認証評価の視察・調査
- 評価(トライアル)実施大学における自己点検評価の開始
(新潟大学、東京歯科大学)
- 公開シンポジウムの開催

[16]

本学でのガバナンス機能の改革①

学校教育法及び国立大学法人法の改正のポイント

- 大阪歯科大学学則(改正案)
→平成27年4月1日一部改正
- 大阪歯科大学教授会・主任教授会規程
(改正案)
→平成27年4月1日改正

□改革②:その他のガバナンス機能と改革

(※改革②は、H27.4月以降に届出要)

[17]

I. 教学-a(第1学年～第4学年)の改革

1. 入試倍率向上 :2倍以上にアップ
2. 統計専従者 :入試から卒業後までの教学データ活用
3. 新カリ4年目 :留年生を減らす教育力と教員力
4. 新しい科目 :★「ODUソーシャルコミュニティ活動」
★「研究力チャレンジ」[SCRIP参加研究]
5. CBT合格授業 :本試合格を90%以上にする。
6. OSCE合格授業:全員本試合格を目指す。

ODUソーシャルコミュニティ



[18]

I. 教学-b(第5学年、第6学年、既卒者)の改革

1. 進級試験:病院生の間5回実施
2. 学士1 :本試合格を目指す
3. 全国模試:2～3回(有料)を受験
4. 学士2 :再試合格が卒業の要件
5. 「第6学年教務委員会」を設置(毎月)
:全員の成績分析(詳細)
6. 「既卒者教務委員会」設置(毎月)
:学費免除、個別指導・分析

[19]

II. 大学院の改革 [20]

入学者の倍増と新設専攻科の拡大が主な内容です。基礎系の講座の大学院生が少ないので、授業料を減免するなどの優遇策を講じる。あるいは、臨床系に新たなコースを設ける。例えば、研究者コースや専門医コース、留学生コース（外国へ留学する人のためのコース）など、魅力のあるコースを設けて、大学院生を増やするという改革案であります。

また、2～3年前までは主任教授でないと大学院教授になれないという時代でしたが、学生からあの先生に指導してもらえたら大学院に入りたいというような研究指導力がある先生には、専任教授や准教授であってもどんどん大学院の教員になってもらって、学生には本学の大学院で勉強を続けてもらう。

III. 教員人材の整備 [21]

これは大分進んでおります。いい教員が増えてまいりました。今後も有能な人材を発掘して、さらに本学の基盤を固めたい、教員力を高めたいと思っております。単に長くやっているとか、大人数への一方的な講義ではだめになってきています。アクティブラーニングなど双方向の教育法が求められています。これは小・中・高でもそうってきております。本学でも導入に向けて、研修会などに参加しています。

IV. 附属病院の財務改革 [22]

これにつきましては平成27年度はまだ模索中の状態です。[22] いろいろ課題がありますけれども、まずは臨床実習で自験を全診療科で実施としてほしい。あとは、資格を持った臨床の先生でありながら、あまり診療しないということのないようにお願いしたい。

V. 両専門学校の改革 [23]

技工士専門学校も衛生士専門学校も、1人でも多く新入生を獲得してくる以外にありません。大学でもいろいろ工夫して1人でも多くの優秀な学生を獲得しようと他大学とも競争しているのですから、技工士専門学校も増やしていくように、あるいは安定的に新入生を割り振るために全力を挙げていただきたいと思います。それを達成すれば、次段階として4年制大学への道も検討できるんじゃないかと思うわけであります。

これは私事で恐縮ですが、毎年、12時過ぎたら春日大社へ押しかけましておみくじを引きます。[24] 今年も私は大吉を引きましたので、ここで紹介させていただきます。これは、誠があれば、真実があれば必ず成功するという言葉です。至極当然のことですけれども、なるほどなあと感心してまいりました。

以上でございます。駆け足になってしまいましたが、長時間ご清聴いただきありがとうございました。この後の懇親の席でまた、大学を改革あるいは良くするヒントのサジェスチョンやアドバイスをいただければ、ほんとうにありがたいと思います。本年もどうぞよろしくお願いいたします。[25]

II. 大学院の改革

27年度

1. 大学院生の入学倍増→基礎系優遇策、臨床系新コース
2. 大学院教員の増強→専任教授、准教授からも任用
3. 新設専攻科の拡大→研究者コース、専門医コース、留学生コースetc
4. 外国人院生・留学受入れ→「外国人留学生の優先配属を行うプログラム」
5. 修士課程(衛生士、技工士)→平成28年開設

[20]

III. 教員人材の整備

27年度

1. 教員評価→本格実施「新授業評価表」→「優れた教員の発掘→教員力・OBT、学士1・2にパスする授業・質をさげない授業力に改善」
2. 優れた大学教授の選出→H27に主任教授5名、専任教授2名が欠員
3. 優れた専任教授・大学院教授→新規任用を拡大する。
4. 大学院生・ポスドクの海外留学支援→帰国後教員任用
5. 優れた教育アドバイザー(教員)→任用を拡大する

[21]

IV. 附属病院の財務改革

27年度

1. 各診療科毎の医療収入と患者数を評価：月次
2. 全診療歯科医、医師個人毎の医療収入と患者数：月次
3. 各科ごとの収支改善：経費見直し、月次
4. 臨床実習→診療参加型→早急に転換、「自験」を全診療科で実施。
5. 病院運営貢献者への顕彰・報奨

[22]

V. 両専門学校の改革

27年度

- 歯科技工士専門学校→新入生獲得が必須
 - ・入学生を増やすことが最優先課題
 - ・1年毎に達成目標を提出・・・2年で最終評価
 - ・国家試験の全国統一化→平成28年3月から実施
- 歯科衛生士専門学校→新入生安定増強
 - ・全力をあげて新入生を増強する
 - ・定員オーバーも可とする
 - ・大学院修士課程へ奨励教育→進路指導など
 - ・4年制大学への移行を検討

[23]



[24]



[25]

はじめに

大阪歯科大学は、平成 23(2011)年に創立 100 周年を迎えた。私立歯科大学・歯学部を取り巻く状況は厳しいものがあるが、こうした中、創立者・校主の藤原市太郎が遺した本学の建学の精神である「博愛」と「公益」を中核に、歯科医学に関する専門知識と医療技術、そして、建学の精神に通じる労りの心・思いやりの心＝Science, Art & Heart の修得を教育方針として、大学全分野にわたる改革目標である「五つの力の目標」と「三つの力の追加目標」を定め、順調に実績を重ねている。

平成 27 年度は、「五つの力の目標」のうち、特に《教育力》と《人間性涵養力》について、また、「三つの力の追加目標」では《大学院力》と《研究力》についてその強化に努めたい。

《教育力》としては、学生参加の双方向授業に対する教員の能力を一層高めていかなければならない。そのための FD(ファカルティ・ディベロップメント)を今年度も積極的に展開していく。また、学生に対しては《人間性涵養力》を培い、より一層態度教育を徹底する意味で、平成 27 年 4 月から ODU ソーシャルコミュニティという授業科目を置き、本学が所在する枚方市楠葉花園町周辺の清掃活動を行うことを決定した。

《大学院力》の強化策としては、新専攻科の設置などによる入学者増を検討することや、《研究力》増強として平成 28 年度に向けて修士課程の開設準備と合わせて、大学院教員の登用方法の見直しを行っていくものである。

学部学生の研究力を高めることも文部科学省の要請でもあるため、平成 27 年度は、《研究チャレンジ》として、カリキュラムに取り入れて、意欲のある学生の教育にも力を注ぐこととしている。また、毎年開催される SCRP(スチューデント・クリニシャン・リサーチ・プログラム)について、平成 27 年度も学生の積極的参加を推奨する。国際交流についてもグローバル人材の育成を目的に、教員・学生の交流を重点活動として取り組むものである。

大阪歯科大学の展開する数々の取り組みは、文部科学省が全国の私立歯科大学・歯学部に対して求める質の高い優れた歯科医師の養成に合致するものである。このことは、本学が大学基準適合の認定を受けた大学基準協会による認証評価(平成 27 年 3 月)や歯学教育認証評価トライアルの参加大学として反映されている。

今や大阪歯科大学は、我が国における歯科大学・歯学部のモデル大学として高く評価されている。この実績をさらなる 100 年に向けて大きく展開する跳躍台にし、新たな改革に邁進開花していくものである。

■ 平成 27 年度事業計画 ■

平成 27 年度の事業として次の項目を掲げ、着実に実行していくものである。

I. 教学(学部教育)の改革

【教学 -a (第 1 学年～第 4 学年) の改革】

【教学 -b (第 5 学年、第 6 学年、既卒者) の改革】

【国際交流】

【社会連携・社会貢献】

【ガバナンス機能の改革】

II. 大学院の改革

III. 教育人材の整備

IV. 附属病院の財務改革

V. 歯科技工士・歯科衛生士 両専門学校の改革

VI. キャンパス施設・設備の整備

VII. 法人・大学の管理運営

I. 教学(学部教育)の改革

【教学 -a (第 1 学年～第 4 学年) の改革】

1. 入試制度改革

本学では、平成 19 年度に学生の受け入れ方針(アドミッションポリシー)を定め、Science, Art & Heart の修得に向けての気概に溢れる入学者の確保に向けて取り組んでいる。

平成 27 年度入試からは、一般入試(前期日程)において東京試験場を新たに開設し、成績優秀者(上位 30 名以内)に対し、入学初年度にかかる学費を免除する成績優秀者特待生入学制度を新設した。また一般入試(前期・後期日程)において大学入試センター利用入試を導入した。これにより募集ブランド力を高めることができた。

上記の実績を踏まえ、平成 28 年度入試に向けて

- (1) 地方試験場の増設
 - (2) 外国人留学生入試の実施
 - (3) ホームページによる入試関連情報の発信
 - (4) オープンキャンパスの内容の充実
- などを積極的に推進していくものである。

2. 教学分析部署の設置について

近年、学生に関する教学データの分析を軸とする IR(Institutional Research)への社会的な要請が高まっており、本学においても入試段階から入学・卒業までの学生の実態や学習効果を検証するシステムを整備すべきであると考えた。したがって平成 27 年度は、本学独自の教学分析部署

の設置に向けて人材の配置を含め体制を整えていく。

3. 新カリキュラムの検証

平成 23 年度に教育課程の編成・実施方針（カリキュラムポリシー）及び学位授与方針（ディプロマポリシー）を制定、平成 24 年度第 1 学年から新カリキュラムを開始し、平成 27 年度で 4 年目の節目を迎える。従来にも増して学年指導教授、助言教員、歯科医学教育開発室教員、教務学生課職員の総員体制で教育支援制度の充実を図り、学力レベルの向上（留年者の減少）へ取り組んでいく。

4. 大阪歯科大学独自の特色ある授業科目の展開

平成 27 年度は、本学の建学の精神である「博愛」と「公益」に連動する Science, Art & Heart の修得に向けて、特色ある授業科目を新設することとなった。すなわち、「ODU ソーシャルコミュニティ」、「研究チャレンジ」である。

「ODU ソーシャルコミュニティ」は、第 1 学年から第 4 学年までの全ての学生が、教職員とともに枚方市の主催する環境美化ボランティア活動であるアダプトプログラムに参加し、本学が所在する枚方市楠葉花園町周辺の道路等の公共空間の清掃・環境美化を実施するという内容である。

「研究チャレンジ」は、第 3 学年に配当されており、学業成績優秀で意欲ある学生に対する教育であり、このような特別な教育については、文部科学省も学生の研究力向上の観点から注視しているところである。これは、学生によって教室・講座等を選択のうえ、研究指導が実施される。

5. 共用試験（CBT, OSCE）の成績向上

第 4 学年次に行われる共用試験については、いずれも本試験で高位の合格率を目標にした対応（コアカリに沿った講義）を行う。

【教学-b（第 5 学年～第 6 学年、既卒者）の改革】

1. 第 5 学年臨床知識試験の実施

平成 24 年度から実施しているもので、臨床実習と並行して年 5 回実施していく。

2. 第 6 学年への教育

学士試験における成績の向上と本学が指定する特別試験の受験を義務化して、歯科医師国家試験へのスムーズな合格を目指す。（第 6 学年教務部委員会による全面的フォローアップを行う。）

3. 既卒者への対応

既卒者教務部委員会による丁寧な個別指導の結果、既卒者のモチベーションが向上している。平成 27 年度も

この指導を継続する。

【国際交流】

平成 27 年度においても学術交流協定締結校との事業（学生短期海外研修、研究者受け入れによる学術交流等）を継続して行い、グローバル大学として一層の充実を図る。

・コロンビア大学からの学生受け入れ（3 名）

期間：平成 27 年 4 月 5 日（日）～ 4 月 11 日（土）

・南方医科大学口腔医学院からの教員等の受け入れ（3 名）

期間：平成 27 年 4 月 2 日（木）～ 4 月 3 日（金）

・四川大学華西口腔医学院

インターナショナル サマーキャンプ

期 間：平成 27 年 7 月 5 日（日）～ 7 月 17 日（金）

募集期間：平成 27 年 4 月 1 日（水）～ 4 月 15 日（水）

説 明 会：平成 27 年 4 月 9 日（木）17 時

研修目的：歯学臨床のスキルアップと歯学生の国際交流を深めるため開催されるもので、日本の歯学生（東北大学、日本歯科大学、本学各 2 名）並びにオランダの歯学生が招待されている。

【社会連携・社会貢献】

平成 5 年度から開催している大阪歯科大学公開講座に関しては、平成 27 年度においても市民へタイムリーな歯科医学に関する情報を分りやすく提供していく。

枚方市との学園都市ひらかた推進協議会、健康医療都市ひらかたコンソーシアムの事業にも積極的に参加し、地域に密着した大学として社会連携・社会貢献を推進する。

【ガバナンス機能の改革】

文部科学省の推進している大学ガバナンス改革については、大学学則、教授会・主任教授会規程を平成 27 年 4 月 1 日付けで改正した。今後、学内諸改革の一層の進展を図っていくものである。

II. 大学院の改革

1. 大学院生の入学倍増

基礎系を専攻する学生への優遇策（授業料等の減免）、臨床系の新専攻科目の開設などを検討する。また、外国人留学生の受け入れを展開するとともに、大学院生・ポスドクトラルフェローの海外留学を支援する。

2. 新設専攻科の設置

研究者コース、専門医コース、留学者（海外への留学に向けて）コースなどの新しい専攻科の設置を検討する。

3. 大学院修士課程の設置

歯科衛生士、歯科技工士から大学院への道を開くため、平成 28 年度の設置準備を行う。

4. 大学院教員の増強

平成 24 年度から研究指導力のある専任教授を新専攻科目の大学院准教授に登用し、大学院准教授による院生募集を始めるとともに、講座外大学教員にも任用枠を拡充するなど大学院教員の増強を図っている。このような教員増強策を大学院入学生の増加、ひいては大学院全体の活性化へとつなげていく。

5. ティーチングアシスタント事業

12 名の採用を予定しており、学部学生に対する教育補助を行う。

III. 教員人材の整備

1. 教員評価の本格実施

「新授業評価表」による優れた教員の発掘で教員力を高める。すなわちアクティブラーニングなどを取り入れた授業を行う人材を育成するための FD 研修会を頻繁に実施する。

2. 人材の登用

平成 27 年度には主任教授 5 名、専任教授 1 名が欠員となるため、早期に教授職の選考を開始する。

大学院修了者・ポストドクトラルフェローへ海外留学を推奨し、帰国後に教員任用へのキャリアパスを開くことを検討する。

教育アドバイザーとして意欲ある教員を積極的に登用していく。

3. 研究について

競争的外部資金を教員自らが取得することを推奨し、科学研究費補助金をはじめ各種競争的外部資金の獲得件数を高めるよう研究活動の活性化を図る。

IV. 附属病院の財務改革

本学附属病院は、地域における患者様のニーズに合った診療（土曜診療、先進医療等）を行うとともに、臨床研修施設として歯科医師の養成に努め、指導的立場にある歯科医師の資質向上にも取り組んでいる。このような活動を継続していくためには、強固な財務体質が肝要であることは言うまでもない。

理事会傘下の経営改善委員会において、診療科ごとの医療収入と患者数を月間で評価し、経費の見直しを行い財務状況の改善に向け取り組んでいく。

病院運営に顕著に貢献した医員への顕彰・報奨制度を設け、本人はもとより医員全体のモチベーションの高揚に役立てることも検討していく。

V. 歯科技工士・歯科衛生士 両専門学校の改革

平成 27 年度も継続して理事会傘下の経営改善委員会において、両専門学校の運営改善に向けて取り組んでいく。

【歯科技工士専門学校】

入学生の確保を最優先とする諸活動を行い、達成目標を設定し評価を行う。

【歯科衛生士専門学校】

- ・できるだけ多くの入学生の確保を目指す。
- ・設置準備中の大学院修士課程（2 年制）への進学を指導する。

両専門学校生にとって国家試験に合格した後、本学歯学部開設した科目等履修生制度による学部授業科目の単位取得が可能となり、所定の単位を取得した上で大学評価・学位授与機構に申請・審査を受け、「学士」の学位が与えられる道が開かれることとなった。

専門学校卒業→国家試験合格→科目等履修制度単位取得→学士の学位取得→大学院修士課程進学というキャリアパスが開かれることとなり、入学志願者の増加が見込まれる。ホームページ等で広範にこの情報を発信していく。

VI キャンパス施設・設備の整備

楠葉、牧野、天満橋の 3 学舎については、大学設置基準に定める校地面積の約 10 倍の面積を保有し、法令上の基準を十二分に満たしている。

天満橋学舎の創立 100 周年記念館は、学部第 5、6 学年の教育環境改善に貢献している。図書館利用環境の整備（夜間・休日開館）、学術情報アクセスの充実も行っている。

平成 27 年度では、楠葉学舎において既存の建物を利用し、第 4 学年の CBT 対応のグループ学習室に改装し教育施設の充実に努める。

平成 27 年度における施設・設備の整備予定（抜粋）は、次のとおりであり教育研究等環境の改善を図っていく。

【楠葉学舎】

- ・自習室新設工事並びに駐輪場移設工事
- ・3、4 号館エアコン整備工事
- ・第 4 実習室実習用顕微鏡の段階的更新（平成 25 年度から計画的に更新）
- ・第 7、8 実習室歯科技工用モーターの取替
- ・第 8 実習室技工機の TV モニター更新
- ・教育情報センター既存サーバーの仮想化統合など

【天満橋学舎】

- ・本館機械駐車場シーケンサ制御システム等更新工事
(3ヵ年計画の初年度)
- ・本館冷暖房熱源用冷温水発生機の老朽化に伴うオーバーホール
- ・消防設備不具合是正修繕工事
- ・廃水処理設備整備工事
- ・診療室チェアーユニットの更新
- ・超音波洗浄装置の更新
- ・病院情報システム(基幹システム、部門システム)の更新など

【牧野学舎】

- ・ナイター照明修繕工事
- ・構内の松林整備工事
- ・体育館改修等の検討 など

VII. 法人・大学の管理運営

法人・大学の管理運営は、確固とした経営基盤のもと効率的に行っていかなければならない。平成27年度においても、経費の抑制を図るとともに教育・研究・臨床の各活動の活性化と充実に努める。

事務職員の資質向上のため、SD(スタッフディベロップメント)を実施し、現在から将来にわたる多様な業務内容の変化に即応できる人材の育成を図っていく。

Ⅱ 人事

教員採用

歯科麻酔学講座	主任教授	百田 義弘
		H.27.2.1 付

昇 任

口腔インプラント学講座	主任教授	馬場 俊輔
		H.27.2.1 付

特別昇任

口腔治療学講座	准教授	好川 正孝
口腔外科学第一講座	講師	田伏 信
	以上	H.27.3.31 付

大学院教員任用

大学院教授		前田 博史
大学院准教授		中嶋 正博
大学院助教		伊達岡 聖
		H.26.12.1 付

昇進・異動

法人事務局	法人事務局長	齊藤 広志
		H.27.1.1 付

所属異動

大学事務局	大学事務局長	亀井 崇
		H.27.1.1 付

兼 務

病院事務部	病院事務部長	齊藤 広志
		H.27.1.1 付

定年退職

口腔衛生学講座	主任教授	神原 正樹
解剖学講座	主任教授	諏訪 文彦

細菌学講座	主任教授	福島 久典
口腔解剖学講座	主任教授	岩井 康智
生物学教室	主任教授	川合進二郎
臨床研修教育科	専任教授	前田 照太
口腔治療学講座	准教授	好川 正孝
口腔外科学第一講座	講師	田伏 信
図書課	課長	高橋 和代
医事課	課長	森田 恭生
医事課	主任	吐山 寛
医事課	事務職員	藤田満里子
附属病院	歯科技工士主任	小山 和美
附属病院	歯科技工士	堀内 賢
附属病院	歯科技工士	明崎 納
	以上	H.27.3.31 付

依願退職

附属病院	看護師	田口 裕理
		H.27.1.5 付
附属病院	看護師	中田 泰代
		H.27.2.28 付
高齢者歯科学講座	講師	川本 章代
口腔外科学第二講座	講師	後藤 基宏
内科学講座	講師	宮前 雅見
歯科矯正学講座	助教	護邦 英俊
	以上	H.27.3.31 付

任期満了退職 図書課	事務職員	平田 悠樹 H.27.3.31 付	大阪歯科大学体育館(多目的施設)建設に関する 検討委員会委員長 検討委員会委員	前田 眞治 藤原 眞一 田中 昌博 牧谷 弘幸 齊藤 広志 以上	下村錢三郎 田中 昭男 松本 尚之 亀井 崇 松村 誠一 田中 修 H.26.12.26 付
再雇用任期満了退職 同窓会事務局	事務職員	三木 慶一 H.27.3.31 付			
委 嘱 自己点検・評価委員会委員長 自己点検・評価委員会委員	諏訪 文彦 田中 昭男 川合進二郎 西川 泰央 佐ノ木幸夫 森田 章介 亀井 崇 松村 誠一 牧谷 弘幸 中山 勝美 以上	川添 堯彬 小正 裕 田中 昌博 覚道 健治 清水谷公成 岡崎 定司 山本 一世 中尾 昌彦 高須 聡 齊藤 広志 H.26.12.26 付	講師(非常勤委嘱) 大学院歯学研究科 解剖学 欠損歯列補綴咬合学 口腔外科学第二	以上	守下 綾香 邢 鶴琳 H.27.2.1 付 久保田英朗 H.27.3.1 付

|| 寄贈

下記の通り寄贈を受けました。心より感謝いたします。

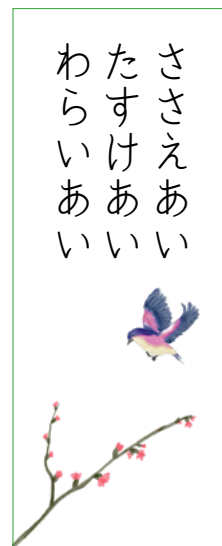
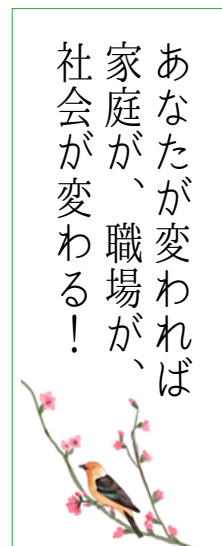
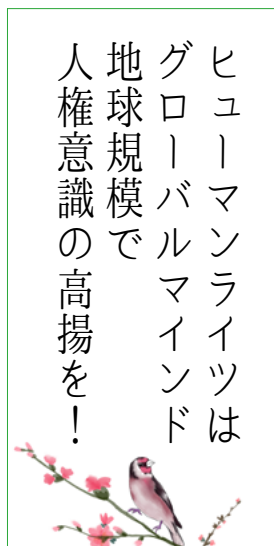
・大阪歯科大学第63回卒業生 | 卒業を記念して | 天満橋学舎西館3階学生自習室 空気清浄器6台 (平成27年3月6日)

|| あとがき

2014年度の人権週間に、人権意識を高めるために人権標語募集を行いました。全部で15編の応募がありました。ご応募いただいたみなさま、ありがとうございました。その中から3点を本学での優秀作とし、大阪同和・人権問題企業連絡会に提出しました。残念ながら今回は入選には至りませんでしたが、教職員や学生から毎年、すばらしい内容の作品が寄せられることは、人権担当として大変うれしく思っております。今後も皆さんが気持ちよく働ける職場環境の一端を担い、人権意識の浸透を目指して職務を全うしてゆきたいと思いをします。

本学優秀3作品を紹介いたします。

(総務課人権担当)



大阪歯科大学広報 第173号
2014.12.01～2015.03.31

発行日 平成27年3月31日
編集発行 大阪歯科大学広報委員会
〒573-1121
枚方市楠葉花園町8-1
TEL 072-864-3111
